



京都先端科学大学 大学院

GUIDE BOOK 2023

▶ 沿 革

1951年 3月	学校法人京都学園創立
1969年 4月	京都学園大学開設
1995年 4月	大学院経済学研究科 修士課程開設 大学院経営学研究科 修士課程開設
2002年 4月	大学院人間文化研究科 修士課程開設
2010年 4月	大学院バイオ環境研究科 博士課程(前期・後期)開設
2019年 4月	校名変更 京都先端科学大学 大学院
2020年 4月	大学院工学研究科 機械電気システム工学専攻 博士課程(前期・後期)開設
2022年 4月	大学院経営学研究科 経営管理専攻(ビジネススクール) 修士課程開設

CONTENTS

学長メッセージ	1
ステートメント	2
3つのポリシー・教育上の目的	3
研究科の学びの特徴	4
研究科紹介	
バイオ環境研究科	9
工学研究科	13
経営学研究科	17
経済学研究科	20
人間文化研究科	23
2023年度大学院 入学試験ガイド	27
奨学金、 長期履修生制度のお知らせ	28
アクセス	29

大学院によって、大学は進化する。 さらなる高みへの探求に向けて。

京都先端科学大学は、予測困難な現代において、時代と人々の意識の変化に対応し、

イノベーションを生み出す人材育成のために、2022 年 4 月、

経営学研究科にビジネススクール（経営管理専攻）をあらたに開講しました。

本学は、バイオ環境研究科、工学研究科、経済学研究科、人間文化研究科と合わせて、

広い分野を探索する5つの大学院を設置する大学へと進化します。

本大学院は、修士、博士の学位取得を目指す教育組織です。

大学院修士生は、現代社会が直面する近未来の困難な課題や多様な社会ニーズに主体的に対応するため、

それぞれに重要な役割を果たします。

- 1) 工学研究科ではコロナ禍により加速している DX 時代に必須となるハードからソフトにわたる多様な学術分野を深く学修し、新しい価値を導き出せる人材、
- 2) 経済学研究科では幅広い分析能力と問題解決能力を兼ね備えた職能人材、
- 3) 経営学研究科ではグローバルな視点から物事を考えて、新たな時代で活躍できる経営人材、
- 4) 人間文化研究科では人間の生き方や社会システムのあり方を追求した高度な専門知識を学修した人材、
- 5) バイオ環境研究科ではカーボンニュートラルも視野に入れた調和型地球環境整備をリードする人材の養成を目指します。

どの大学院においても求められるのは、人間への深い理解と、それらを社会実装するための知恵・知識、そして技術です。

本学では、高い専門性を備え、実践的な英語力を持ち、国際社会人としての基礎能力に富んだ人材を育てます。

世界が必要とする学術と人材を輩出する大学院として一層深い探求を行い、

京都先端科学大学は未来への価値を大学院生、教員、職員がともに創り出していきます。

そして、大学院生の皆さん一人ひとりが描く夢、未来を実現できるよう、

教員、職員は一丸となって支援いたします。



学長
前田 正史

工学博士。東京大学 工学部卒／東京大学大学院 工学系研究科 金属工学専攻 博士課程修了。東京大学 生産技術研究所所長などを経て、東京大学理事・副学長を歴任。2016 年 10 月～2019 年 3 月まで日本電産株式会社生産技術研究所所長。研究分野は、「金属生産工学」「資源リサイクル」。2018 年 4 月より京都学園大学副学長、2019 年 4 月京都先端科学大学学長に就任。

Move Ahead

未来を生み出せ

今、世界を決定的に変えてしまう何かが起きている。

君たちはそう感じているのではないだろうか。

デジタルテクノロジーがリアル世界を包み、

驚くような速さで人間や世界への認識を

根底から変えていく。君たちがこれから目にする世界は、

積み上げられてきた過去からは予想もつかない日常へと

塗り変えられていくだろう。

成功が約束されているわけではない。夢が碎かれる時もあるだろう。

だが、自由に飛躍できる未来は君たち次第で格段に広がっていく。

何かに挑むことで、自分を変えていく。

何かに挑むために、仲間とつながっていく。

何かに挑むときに、君たちの未来が生み出されていく。

Move Ahead 未来を生み出せ

君の未来を生み出せ、彼方の世界を動かせ

君の未来を生み出せ、彼方の世界を動かせ

京都先端科学大学

大学院 5 研究科

研究を深め、人材を育てる

- バイオ環境研究科 [博士課程前期・後期]
- 工 学 研 究 科 [博士課程前期・後期]
- 経 営 学 研 究 科 [修 士 課 程]
- 経 済 学 研 究 科 [修 士 課 程]
- 人 間 文 化 研 究 科 [修 士 課 程]

3つのポリシー

アドミッション・ポリシー

各研究分野の高度な学識と先端的な知識や技能の修得を通じて社会に貢献しようとする意欲の高い人を求める。

カリキュラム・ポリシー

各研究分野の卓越した学識と応用力を修得できるようにカリキュラムを編成する。

ディプロマ・ポリシー

各研究分野の学術研究者や高度専門的職業人として活躍するのに必要な識見を修得した者に学位を授与する。

教育上の目的

本学大学院の目的

本大学院は、京都先端科学大学の建学の精神を踏まえて、教育基本法及び学校教育法に基づき、専門分野における学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、社会の進展に寄与することを目的とする。

本学大学院研究科の目的

本大学院経済学研究科は、現代経済社会の特性を踏まえつつ、国民生活の環境変化に伴う諸問題を分析し、広い視野に立って深い学識を修得し、高度な専門性の求められる職業を担うことのできる人材の育成を目的とする。

本大学院経営学研究科は、国際化・情報化・コンプライアンスの欠如といった社会環境の著しい変化の中にあって経営組織体の内外で生ずる関連諸現象に関し、経営学的側面の理論的かつ応用実践的な専門能力を有する有為の人材育成並びに組織規模の大小、新旧を問わず、起業家精神を発揮して変革の担い手となるとともに、

デジタルトランスフォーメーションや新素材開発の進む中、新しい知見を社会実装してイノベーションを起こす人材を養成することを目的とする。

本大学院人間文化研究科は、人間の心理、社会の態様、文化の機能を多角的に解明する学問体系の構築を図り、歴史的な視点を踏まえて、現代社会が抱える諸問題の解決に寄与できる人材を育成することを目的とする。

本大学院バイオ環境研究科は、多様な生き物と共生できる持続可能な地域環境（バイオ環境）を作り上げることが目標とし、そのために、バイオ環境をデザイン（設計）する領域の発展と、これに対応したバイオテクノロジーと環境学を連携させた広い視野を持つ人材を養成することを目的とする。

本大学院工学研究科は、機械分野と電気分野に跨る学際的な工学分野の専門的知識・学術・教養を兼ね備え、グローバル社会への関心と、次世代の電気機械システムに必須の専門領域の高度な知識を修得し、さらに深化させることによって次世代の産業の創出と新たな価値の創出に貢献できる技術者・研究者を育成する。

バイオ環境研究科

バイオ環境研究科が大きく変わります。

2022年4月設立の未来バイオ環境共創センター（FuBEIC）を核に、バイオサイエンス、バイオ環境、食と農を統合し、海外からの学生・教員を迎え、未来の地球環境創出研究を行う、国際的かつ先端的な「バイオ環境研究科」となります。

めざすこと

ヒトと多様な生物が共存するバイオ環境を維持・創出するプロフェッショナルを養成します。



未来の地球を救うのはバイオ環境科学

未来の地球環境創出のためには、生物／環境／食・農についての総合的な「バイオ環境科学」を身につける必要があります。バイオ環境科学は、刻々と変化する地球環境の中で、自ら生物を観察し、作物を育成し、環境と生物の関係を見出す中で初めて身に付くものです。本研究科では、FuBEICを核にして、3学科統合実習、さらにはゲノム解析やビックデータ解析を取り入れた最先端の演習、SDGsの文理融合教育を行います。また、学内の4学部、東京大学、京都大学、奈良先端科学技術大学院大学、理化学研究所などと連携し、さらには多くの企業や自治体との共同研究を進めることで、バイオ環境の維持・発展のための新技術開発から社会実装までを視野に入れた研究教育を推進します。未来の地球を作っていくのは若い皆さんです。私たちの研究科で一緒に学び、バイオ環境科学のプロフェッショナルを目指しませんか。

バイオ環境研究科長 福田 裕穂

研究内容や教育内容

食と健康：健康寿命延伸に向けて、食品の機能性を多面的に評価する

健康な生活を維持増進するためには、生活習慣の中でもとりわけ食生活は重要であり、毎日食べている食品を単に栄養としてではなく、機能性成分を積極的に取り入れることで健康寿命を延伸できるように研究を進めています。さらに、亀岡市、医薬基盤研究所・国立健康栄養研究所とのコラボレーションで、コホート試験のデータから、運動も含めた生活習慣改善の提案を行っていきます。



環境と農業：水田生態系で多様な生物と共生する

アジアに広がる水田は、米の生産場所として食を支えると同時に、多様な生物との共生を実現してきました。生物多様性や生態系の回復が世界的な目標となっている現在、低投入持続型農業や有機農業などの取り組みと協働して、水田生態系のポテンシャルを活かし、より多くの生物と共生する環境を創出します。

地域食資源：京都の伝統農作物のゲノムを解明し、次世代の品種改良につなぐ

京都には、丹波の黒大豆や丹波大納言など、高品質な農作物があります。それらは昔から京都で受け継がれてきた在来品種が素材となっていて、あがった銘柄です。そうした伝統素材の特徴をゲノム解析等で解明し、品質の良さを残しつつ、今後の環境変動にも適応できる新品種の開発につなげることを目指します。



SDGs：河川とプラスチックごみ、微生物環境の関係を解き明かす

プラスチックによる海洋汚染は全地球的な問題です。陸域から海洋に至るプラスチックごみやマイクロプラスチックの流出起源や流出経路、生態系や健康への影響について、フィールドを中心としたマクロな視点とDNA分析や培養を中心としたミクロな視点から解明しています。農業地域からのプラスチック流出に着目し、環境先進都市「亀岡」の市民を巻き込んだ汚染問題解決を図ります。

工学研究科

材料、エネルギー、情報、システムの4領域の専門的な教授陣を擁する、「工学研究科」

めざすこと

グローバルで高度な専門知識を有した技術者・研究者を育成します。



目指すは“融合”と“創造”を実践するプロアクティブ・グローバル人材育成

既存の価値観や枠組みを根底から覆すような革新的なイノベーションをもたらす「デジタル・トランスフォーメーション（DX）」が始まっています。ロボットや自動運転車はその一例です。DX時代をリードしていくには、特定の技術分野に囚われることなくグローバルな視点で社会的ニーズの高い課題を見つけ、問題点を抽出し、デジタル技術を駆使してこれを解決できる高度専門技術者が求められています。本学工学研究科では、DX時代に必須となる多様な技術分野を材料、エネルギー、情報、システムの4領域として捉え、自分の専門領域を定めて深く究めると同時に関連する3領域の知識も“融合”して深化させることで、新しい概念を“創造”し次世代の産業と新たな価値の創出に貢献できる高度専門技術者を養成します。意欲ある皆さんの応募をお待ちしています。

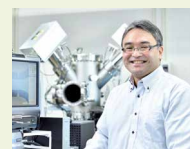
工学研究科長 田畑 修

研究内容や教育内容

材 料 肉眼では見えないナノ材料の物性や機能を独自技術で解明する —— 生津資大 教授

数ナノメートルサイズの物体の強度実測や、材料をナノ化することで新たに発現する機能を探究しています。これらを支えるのはマイクロマシンや電子顕微鏡などを融合させた唯一無二の実験技術。世界に誇る独自テクノロジーで目に見えない物体を巧みに操り、次世代の半導体・自動車産業や医療技術に貢献します。

(担当：中村康一 教授、堀井滋 教授、今井欽之 教授、生津資大 教授、松本龍介 准教授)



エネルギー スマートモータ技術と発電機技術で環境問題に貢献する —— Fuat Kucuk 講師



電気自動車やドローンに搭載するモータを高効率化することは、化石燃料の消費を減らし、地球温暖化を防ぐことにつながります。私の研究室では、新素材やスマート制御技術を駆使した高効率モータや、再生可能エネルギーによる低コスト発電も可能にする、小型かつ高効率な発電機の開発を目指しています。

(担当：Alberto CASTELLAZZI 教授、高橋亮 准教授、岸田逸平 准教授、Fuat KUCUK 講師)

情 報 脳のストレス異常を測定し睡眠障がいの原因究明に挑む —— Liang Zilu 講師

最先端のウェアラブル脳機能イメージング技術と高度なビッグデータ解析手法を組み合わせることで睡眠中の脳活動を測定、ストレス関連異常を探索しています。目に見えない現象の測定は困難ですが、ストレスが睡眠障がいを引き起こす原因や、治療すべき脳の領域を解明することは、人が健康的に生きるために欠かせません。

(担当：田畑修 教授、川上浩司 教授、Ian PIUMARTA 教授、Liang Zilu 講師、Martin SERA 講師、西正之 准教授)



シ ス テ ム オンライン技術をより正確に安全に行うためのロボットを開発 —— Sajid Nisar 講師



外科医が手術支援ロボットを遠隔操作する「オンライン手術」の普及にむけて、高度なロボット制御を可能にするウェアラブルロボットの研究開発を進めています。手術支援ロボットの扱いを訓練するVR環境や、手術の際に重要かつ今まで導入が難しかった「触覚」を提供するロボットグローブを開発しています。

(担当：沖一雄 教授、福島宏明 教授、Salem Ibrahim SALEM 講師、Sajid Nisar 講師、佐藤啓宏 講師)

経営学研究科

VUCA の時代において変化に対応できる互換性・汎用性のあるスキル、経営のデジタル化を進めることのできる知識、経営実践に関する高度な専門性、そして、技術管理・技術開発を含むイノベーション意識を醸成する「経営学研究科」

めざすこと

- ① グローバルに通用する汎用性・実践性の高い人材の育成
- ② プロフェッションとして社会に必要とされる専門性の高い人材の育成



経営学研究科では、経営学専攻の募集を止めて、経営管理専攻（ビジネススクール）のみの募集を行います。近年の激変する経営環境に対応できる経営者を育成するために、まずは経営の基礎をしっかりと身に付けてもらい、次のステップで、DX 経営・ESG 投資・ブランディングなどの先進的な経営学やイノベティブな技術の開発・管理の方法を修得してもらいます。

また、ビジネススクールには珍しく、修了までに 96 時間という長い研究指導の時間を設けて専門講義で学んだ断片的な先端知識を統合する訓練を行い変化に対応できる総合的なスキルを育成します。

経営学研究科長 徳賀 芳弘

研究内容や教育内容

近年は VUCA（Volatility, Uncertainty, Complexity, and Ambiguity）の時代と言われており、将来予測が困難な状況にあります。VUCA の深化と併行して、デジタル化は急速に進展し、また AI・IT の技術革新が生活や産業に浸透し、ビッグデータの利用も容易になりました。他方で、SDGs や ESG についての意識がグローバルに共有されつつあります。経営者はこのような急激な経営環境や人々の意識の変化に柔軟に対応しなければなりません。変化が常態となった現状において、変化に対応できる汎用性の高いスキルを持った経営人材が求められています。



京都太秦キャンパス Future Center（※）



Future Center 内

本ビジネススクールにおいては、コミュニケーション・スキルやデータ解析スキルの獲得はいうまでもなく、修士論文の執筆指導においては、多数の専門知識の深化のみならず、それら相互の関係性を理解して、これらを統合する論理的思考や実践知を鍛えます。このことは、本ビジネススクールが、“修論を課さない専門職修士制度を採用していない”理由でもあります。講師に関しましては、本学の精鋭に加えて、各分野でグローバルに活躍されてきた実務家や研究者を選び抜き、わが国でトップクラスの講師陣を揃えることができました。講義は日英のハイブリッド方式ですが、英語開講科目の履修のみで修了できる講義数を用意しています。

（※）Future Center：2022 年 4 月 1 日から運用を開始した Future Center は、外部に開かれたデザインと、オンラインに対応した機能を揃えており、ビジネススクールを実施する教室、公開講座やイベントの実施等で広く活用しています。

経済学研究科

理論研究と政策研究を通じた経済学に基づく視座と発想、統計学や計量経済学によるデータ解析の専門的な技法を学び、税理士やCFP®の高度専門職の資格取得を目指す「経済学研究科」

めざすこと

- ① 高度専門職業人としての税理士の育成
- ② IT や AI を駆使してビッグデータの解析を行うことのできる人材の育成
- ③ 行動経済学を柱とする市民大学院コースの準備



理論と政策

経済学研究科では、理論研究と政策研究を通じた経済学の専門的知識を獲得するだけでなく、それを現実社会の構造や人間行動の分析に応用し、諸課題の解決に向けた提案ができる人材の育成を目指します。また、近年のビッグデータの蓄積や AI の社会的実装の進展に伴い、社会の様々な意思決定において、重視されつつあるデータサイエンス分野で必要とされるデータ解析の技法の獲得を目指します。さらには、税理士やCFP®の高度専門職の資格取得を目指す人に向けて、手厚いサポートと共に、実務で役立つ専門知識の獲得を目指します。

経済学研究科長 徳賀 芳弘

研究内容や教育内容

理論

ミクロとマクロの経済理論を基礎に、その応用としての行動経済学や国際経済学などの分野を研究する。

政策

財政政策や金融政策などのマクロの視点と、公共政策や社会政策などのミクロの視点の両方から政策分析を学び、現実社会の諸課題への政策対応を研究する。

データ解析

統計学や計量経済学などデータサイエンスの基礎になる経済データ分析の技法を学び、現実社会の構造や人間行動を研究する。

税理士養成コース

各種の租税法や租税会計実務を学び、税法領域での修士論文の完成と実務で役立つ知識と技能の習得を目指す。

CFP®プログラム

ファイナンシャルプランナーの国際資格 CFP® の受験資格の取得と、国内資格 AFP の資格申請を目指す。



人間文化研究科

心理学、臨床心理学、社会情報、文化研究という4つの視点から人間や社会の謎に挑む、「人間文化研究科」

めざすこと

人間や社会に対して深く理解でき、1つのことに突き抜けた高度専門職業人・研究者を養成します。



人間文化研究科で1つのことを突き詰めて、突き抜けた研究をしよう！

皆さんはなぜ大学院に行きたいと思っているのですか？もちろん「研究」するためですね。それでは「研究」とは何でしょうか？大学生の頃に気づいていたと思いますが、高校までの「勉強」は答えのある問題をできるだけ効率的に解くことでした。もちろん高校まででもグループ研究のような「研究」の時間があつたでしょう。しかし大学入試に合格するためにはかなりの時間「勉強」をしなければなりません。このような高校までの「勉強」とは違って、大学や大学院での「研究」は、まず自分で問題を見つけることから始まります。そしてその問題の答えをいろいろな方法で見つけようとしています。もしかしたら、そもそも答えがないかもしれません。しかしその問題を考え抜くプロセスが大切です。その問題を突き詰めて考え続けることで、気がついたら突き抜けた研究をしています。皆さんも人間文化研究科で私たちと一緒に突き抜けた研究をしませんか。

人間文化研究科長 佐藤 嘉倫

研究内容や教育内容

心理学コース



心理学実験を通じて「気持ち分かる」とは何かを明らかにする —— 池田慎之介 准教授

私たちは日々、他者とコミュニケーションをとる中で、相手の気持ちを上手く察することができたり、逆に相手の気持ちが全然分からなかったりします。この、一見簡単そうでとても難しい「気持ち分かる」とはいったい何なのか、子どもや大人を対象にした様々な実験を通じて明らかにすることを目指しています。

臨床心理学コース

「こころの問題で苦しむ人をどう支える？」を研究する —— 小山智朗 准教授

こころの問題で苦しむ人たちに、どのように関われば良いのでしょうか？私は、単に問題を取り去るだけではなく、その苦しい体験が心の成長の機会となるためには、心理療法家としてどのように関われば良いのかを研究しています。



社会情報コース



メディアが他者同士の共感をつくるプロセスを解明 —— 君塚洋一 教授

映像や音楽などの作品にふれると、他人がつくったもののなのに自分自身のそれと思える心情が表現されていて共感に至ることがあります。作品や広告などのメディアを通じた主観的経験によって未知の他者同士の感情が共有され、個人史に残る経験やアーティストとオーディエンスの一体感がつくられるプロセスを作品表現や社会史の分析により研究しています。

文化研究コース

『源氏物語』の時代と作品をあらゆる方向から立体的に解明する —— 山本淳子 教授

文学作品を創作するのは〈作者〉ですが、そこには必ず時代と社会が影響します。例えば、才能があっても女性ゆえに認められなかった紫式部の鬱屈。あるいは、疫病の流行と紫式部の夫の死。さらには、『源氏物語』直前、貴族社会を動揺させた政変と藤原道長の台頭。様々な視点から光を照射して、作品をさらに深く理解することを目指します。



バイオ環境研究科

京都亀岡キャンパス

Graduate School of Bioenvironmental Sciences

博士課程前期／博士課程後期 バイオ環境専攻

CONCEPT

研究科コンセプト

[博士課程前期(2年)]

バイオ環境を実現するためのリーダーとして活躍できる バイオ環境技術者を養成します。

バイオサイエンス、環境学および食農学を連携させ、人とともに多様な生き物が共生できる環境(バイオ環境)を作り上げることを目標としています。

そのため授業科目は「バイオサイエンス領域」「バイオ環境デザイン領域」「食農領域」の研究分野科目と3分野関連科目が複合的に履修されるように構成されています。

これにより広い視野を持ち「バイオ環境」を実現するためのリーダー(バイオ環境技術者)を養成します。



めざすキャリア

高度なバイオ環境技術者

- | | |
|----------------------------------|-----------------------------------|
| ☐ バイオ関連企業 | ☐ 農業関連企業 |
| ☐ 環境関連企業 | ☐ 公務員 |
| ☐ 食品関連企業 | ☐ 博士課程後期進学 |

中・高等学校教育の担い手

- | |
|---|
| ☐ 中学校教諭(専修免許状・理科) |
| ☐ 高等学校教諭(専修免許状・理科) |

[博士課程後期(3年)]

バイオ環境を実現するためのリーダーとして活躍できる より高度なバイオ環境技術者を養成します。

バイオサイエンス、環境学および食農学を連携させ、人とともに多様な生き物が共生できる環境(バイオ環境)を作り上げることを目標とする、バイオ環境研究科の教育理念に基づき、博士課程後期では、3分野の複眼的な研究をさらに進めて「バイオ環境」の新しい研究領域を開拓し、企業の研究所やベンチャー企業でも、即戦力として技術開発や先端的な研究に取り組める、より高度なバイオ環境技術者を養成します。

めざすキャリア

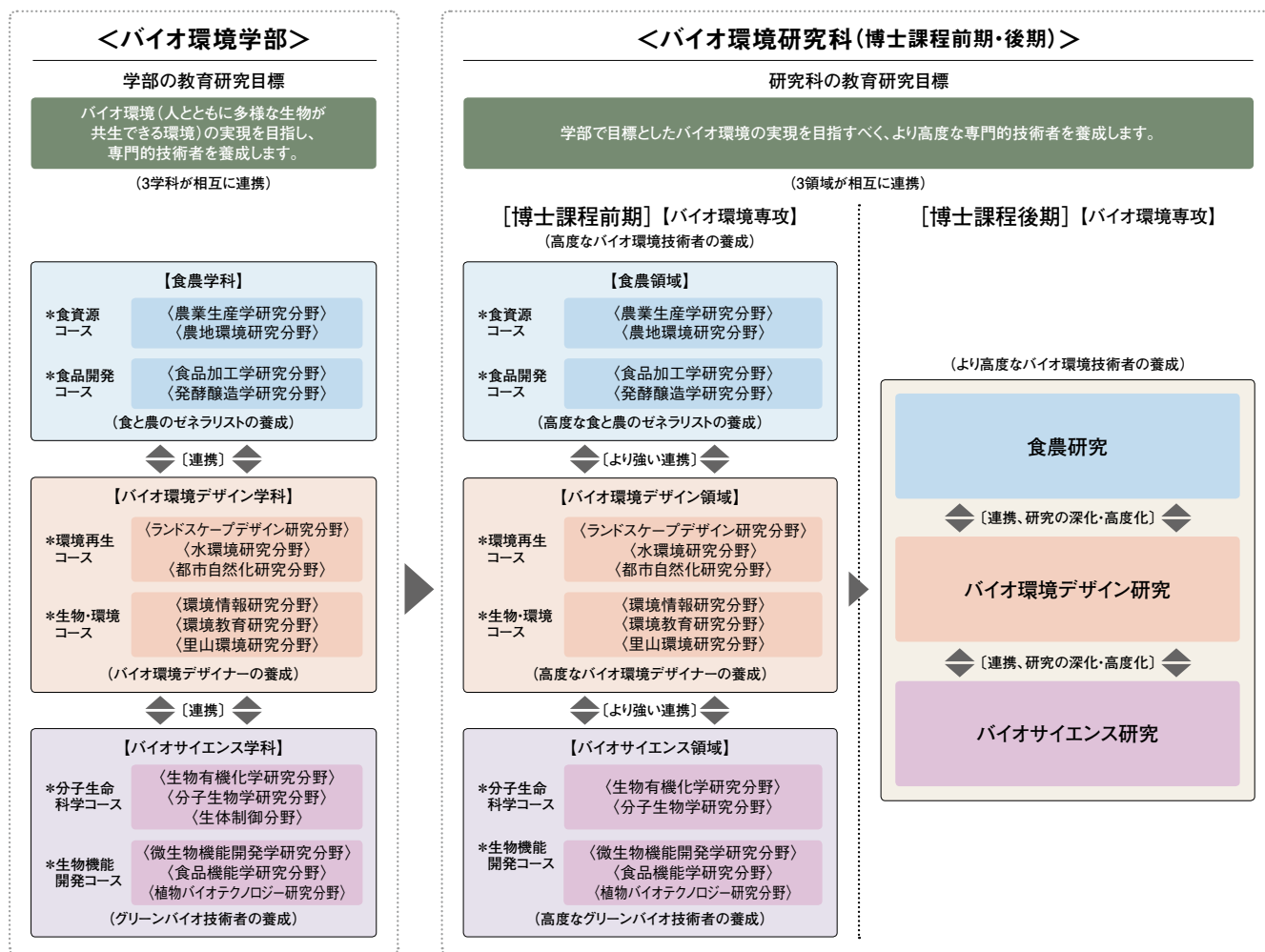
より高度なバイオ環境技術者

- | | |
|----------------------------------|---------------------------------|
| ☐ バイオ関連企業 | ☐ 農業関連企業 |
| ☐ 環境関連企業 | ☐ 公務員 |
| ☐ 食品関係企業 | |

◎ 社会人の受入 ◎

博士課程後期には社会人も受け入れます。ここでの社会人とは、博士課程前期(修士課程)修了者あるいはそれと同等の学力を有する者で、勤務先(所属事業所や企業の長)から同意を得ている者をいいます。社会人としての専業と両立できるように、週末や休暇期間を使った指導を行い、また、日常的には電子メールなどを活用した指導を行います。社会人の経歴を勘案して、試験の一部を免除することがあります。

「バイオ環境学部」と「大学院バイオ環境研究科(博士課程前期・後期)」の関係説明図



CURRICULUM

カリキュラム

■博士課程前期

研究分野 関連科目	【演習科目】 ☐ 生物有機化学特別演習Ⅰ～Ⅳ ☐ 分子生物学特別演習Ⅰ～Ⅳ ☐ 微生物機能開発学特別演習Ⅰ～Ⅳ ☐ 食品機能学特別演習Ⅰ～Ⅳ ☐ 植物バイオテクノロジー特別演習Ⅰ～Ⅳ ☐ ランドスケープデザイン特別演習Ⅰ～Ⅳ ☐ 水環境特別演習Ⅰ～Ⅳ ☐ 都市自然化特別演習Ⅰ～Ⅳ ☐ 環境情報特別演習Ⅰ～Ⅳ ☐ 環境教育特別演習Ⅰ～Ⅳ ☐ 里山環境特別演習Ⅰ～Ⅳ ☐ 農業生産学特別演習Ⅰ～Ⅳ ☐ 農地環境特別演習Ⅰ～Ⅳ ☐ 食品加工学特別演習Ⅰ～Ⅳ ☐ 発酵醸造学特別演習Ⅰ～Ⅳ	【特別研究】 ☐ 生物有機化学特別研究 ☐ 分子生物学特別研究 ☐ 微生物機能開発学特別研究 ☐ 食品機能学特別研究 ☐ 植物バイオテクノロジー特別研究 ☐ ランドスケープデザイン特別研究 ☐ 水環境特別研究 ☐ 都市自然化特別研究 ☐ 環境情報特別研究 ☐ 環境教育特別研究 ☐ 里山環境特別研究 ☐ 農業生産学特別研究 ☐ 農地環境特別研究 ☐ 食品加工学特別研究 ☐ 発酵醸造学特別研究
	科学英語 【演習科目】 ☐ 科学英語演習Ⅰ～Ⅱ	

専門基礎 科目	☐ 分子生命科学特論 ☐ 生物機能開発特論 ☐ 環境再生特論	☐ 生物・環境特論 ☐ 食資源特論 ☐ 食品開発特論
関連科目	☐ グリーンバイオ最先端技術特論 ☐ 環境デザイン最先端技術特論 ☐ 食農最先端技術特論 ☐ インターンシップ A、B	

■博士課程後期

☐ バイオ環境特別演習Ⅰ～Ⅵ ※系統的なカリキュラムを特に設定せず、「特別演習」と「特別研究」を単位化することにとどめ、各自の研究に専念していただきます。	☐ バイオ環境特別研究
---	------------------------------------

年度により開講科目が変更されることがあります。

ADMISSION POLICY

求める人物像

■博士課程前期

1. バイオサイエンスに強い関心を持ち、人類の健康と、快適かつ安全な生活に応用される最先端のバイオ技術やそれを応用する産業に意欲をもって携わりたい者。
2. 自然と科学に興味をもち、持続可能な地球環境と地域社会を建設していくバイオ環境デザイナーをめざす者。
3. 農業のあり方や農作物の加工に興味を持ち、これらに科学的な観点からアプローチし、遂行し、農産物を通じて地域の活性化に貢献したい者。

■博士課程後期

バイオサイエンス研究、バイオ環境デザイン研究、および食農研究のより積極的な連携や複眼的研究をさらに進めて、「バイオ環境」というコンセプトでの新しい研究領域の模索をおこない、新しい環境技術の創成をおこなおうとする学生。修士またはそれと同等の学力を持つ社会人も受け入れる。

食農領域

農業生産学研究分野

北島 宣 教授 博士(農学)	佐藤 隆徳 教授 博士(農学)	船附 秀行 教授 博士(農学)
担当 食資源特論 農業生産学特別演習Ⅰ～Ⅳ 農業生産学特別研究 科目 バイオ環境特別演習Ⅰ～Ⅳ バイオ環境特別研究 食農最先端技術特論	担当 食資源特論 農業生産学特別演習Ⅰ～Ⅳ 農業生産学特別研究 科目 バイオ環境特別演習Ⅰ～Ⅳ バイオ環境特別研究	担当 食資源特論 農業生産学特別演習Ⅰ～Ⅳ 農業生産学特別研究 科目 バイオ環境特別演習Ⅰ～Ⅳ バイオ環境特別研究 食農最先端技術特論
[論文]Hybrid Origins of Citrus Varieties Inferred from DNA Marker Analysis of Nuclear and Organelle Genomes. PLOS ONE 0166969(2016) カンキツの起源・種分化の解明や種子形成に関する研究および無核性品種の育成を行っている。また、環境負荷を低減する農業生産を目指し、冬期に無暖房で栽培できる高品質トマト新品種の開発を試みている。	[著書]『新編 野菜園芸ハンドブック』(養賢堂,2001,分担執筆) [論文]Development of the Parthenocarpic Eggplant Cultivar 'Anominori'. Japan Agricultural Research Quarterly (JARQ), 43, 123-127 (2009) 地域特産物となり得る高付加価値な野菜の品種育成と特性解明、さらに環境に配慮した持続可能な栽培技術の開発に取り組む。	[著書]『Biotechnology in Agriculture and Forestry Vol.38』(Springer,1996、分担執筆) [論文]Molecular basis of a shattering resistance boosting global dissemination of soybean. PNAS, 111:177797-802(2014) 穀類、豆類などの作物の生産性や品質に関連した形質の遺伝解析や特性解明、有用品種育成のための技術開発に取り組む。

農地環境研究分野

藤井 孝夫 教授 農学修士	藤井 康代 教授 博士(農学)	坊 安恵 講師 博士(農学)
担当 食品開発特論 農地環境特別演習Ⅰ～Ⅳ 農地環境特別研究 科目 バイオ環境特別演習Ⅰ～Ⅳ バイオ環境特別研究 食農最先端技術特論	担当 食資源特論 農地環境特別演習Ⅰ～Ⅳ 農地環境特別研究 科目 バイオ環境特別演習Ⅰ～Ⅵ バイオ環境特別研究	担当 農地環境特別演習Ⅰ～Ⅳ 農地環境特別研究 生物・環境特論 科目 バイオ環境特別演習Ⅰ～Ⅳ バイオ環境特別研究
[著書]『日本茶の魅力求めて』(大河書房,2005,共著) [論文]『京都府における茶樹の生育障害発生原因』(京都府立茶業研究所研究報告 第22号 1996) 農作物の品質・収量と土壌管理方法との関係性を明らかにし、環境負荷の少ない生産技術の研究・開発に取り組む。特に、京都の伝統的な農作物である、宇治茶や京野菜を研究対象として研究を行う。	[論文]『採卵鶏飼料としての竹粉および自家発酵竹粉の有用性』Bamboo J., 29, 29-35 (2015) タケを含む木質バイオマスについて、化学的手法による材料利用や生理的現象の解明を行うことで資源の有効活用、資源の持続的な供給を伴うバイオ環境の実現を目指している。	[論文]坊安恵・中村貴子(2020)「農林漁業体験民宿の開業時における開業者の意向と特徴の分析—規制緩和前と子ども農山漁村交流プロジェクト後を比較して—」『農林業問題研究』56(4):135-142 農林漁村での地域の取組を通して6次産業化や地域活性化を研究しています。

食品加工学研究分野

安達 修二 教授 農学博士	四日 洋和 講師 博士(工学)
担当 食品開発特論 食品加工学特別演習Ⅰ～Ⅳ 食品加工学特別研究 科目 バイオ環境特別演習Ⅰ～Ⅳ バイオ環境特別研究 食農最先端技術特論	担当 食品開発特論 食品加工学特別演習Ⅰ～Ⅳ 食品加工学特別研究 科目 バイオ環境特別演習Ⅰ～Ⅵ バイオ環境特別研究
[著書]Introduction to Food Manufacturing Engineering (Springer, 2016、共著) [論文]An accelerated method for estimating the dispersion stability of mayonnaise by oil-water separation under reduced pressure. J. Am. Oil Chem. Soc., 95, 1367-1372(2018) 食品の製造過程で生起する現象をプロセス工学および物理化学の観点から定量的に解析することにより、食品を合理的に製造するための基礎科学である食品工学の発展に寄与する。	[論文]A simple method for determining the flaxseed or fish oil content in microcapsules prepared by spray drying. Jpn. J. Food Eng.,15(3),131-139(2014) 食品のおいしさ、香り、色、機能性を物理化学的視点から評価解析し、現在社会の多様なニーズに応える高機能食品の開発に貢献する。

発酵醸造学研究分野

井口 博之 准教授 博士(農学)
担当 食品開発特論 発酵醸造学特別演習Ⅰ～Ⅳ 発酵醸造学特別研究 科目 バイオ環境特別演習Ⅰ～Ⅵ バイオ環境特別研究
[論文]Microbial characterization of the Japanese traditional pickle senmaizuke produced by two different manufacturing processes. Food Sci. Nutr., 9,4452-4460 (2021) 植物と共生する微生物の環境適応能力や発酵食品中の微生物の機能について、遺伝子工学・分子生物学技術を用いて研究し、微生物生態の理解と発酵醸造・作物栽培への応用展開を目指している。

バイオ環境デザイン領域

環境情報研究分野

田中 和博 教授 農学博士
担当 環境再生特論 環境情報特別演習Ⅰ～Ⅳ 環境情報特別研究 科目 バイオ環境特別演習Ⅰ～Ⅳ バイオ環境特別研究
[論文]LiDAR Introduces Revolutionary Changes in Its Approach to Forest Management. J. For. Plan. 22, 39-46(2018) 森林に関する各種の環境情報をGIS(地理情報システム)などを用いて解析・評価するとともに、数値モデル等を活用して将来予測をしている。また、それらの結果を基に、森林をゾーニングしている。

水環境研究分野

高澤 伸江 准教授 博士(理学)
担当 環境再生特論 水環境特別演習Ⅰ～Ⅳ 水環境特別研究 科目 バイオ環境特別演習Ⅰ～Ⅳ バイオ環境特別研究
[著書]『南極・北極の百科事典』国立極地研究所編(丸善,2004) [論文]Kasamatsu, N., S. Kawaguchi, S. Watanabe, T. Odate, and M. Fukuchi, Possible impacts of zooplankton grazing on dimethylsulfide production in the Antarctic Ocean. Can. J. Fish. Aquat. Sci., 61(5), 736-743 (2004) 河川・湖沼・海洋など様々な水環境を対象として、人間活動が水環境に及ぼす影響や、水質変化や気候変化が生物群集に与える影響について研究を行っている。

ランドスケープデザイン研究分野

丹羽 英之 教授 博士(地球環境学)
担当 環境再生特論 ランドスケープデザイン特別演習Ⅰ～Ⅳ ランドスケープデザイン特別研究 科目 バイオ環境特別演習Ⅰ～Ⅵ バイオ環境特別研究
[著書]『景観生態学』(共立出版,2022) [論文]Niwa, H., 2021. Assessing the activity of deer and their influence on vegetation in a wetland using automatic cameras and low altitude remote sensing (LARS). Eur. J. Wildl. Res. 67, 3. 景観生態学をベースに自然環境を評価しマッピングしている。ドローンを使った新しい評価技術の開発にも取り組んでいる。

都市自然化研究分野

原 雄一 教授	博士(地球環境学)
担当 科目	環境再生特論 都市自然化特別演習Ⅰ～Ⅳ 都市自然化特別研究 バイオ環境特別演習Ⅰ～Ⅵ バイオ環境特別研究
[著書]『京都を学ぶ(丹波編)』(ナカニシヤ出版,2018,共著) [論文]世界主要都市114流域における水害脆弱性指標の開発. 水文・水資源学会,22,10-23(2009)	
バイオ環境の課題を解決するためのデザイン手法として、要素間の空間的な位置関係、空間形成の時間的な履歴、事象の相互の関連性、以上の3点を基本的アプローチとする。	

環境教育研究分野

大西 信弘 教授	博士(理学)
担当 科目	生物・環境特論 環境教育特別演習Ⅰ～Ⅳ 環境教育特別研究 バイオ環境特別演習Ⅰ～Ⅵ バイオ環境特別研究
[著書]保津の漁労「京の筏 コモンズとしての保津川」(ナカニシヤ出版, pp. 63-76, 2016) [論文]インドアルナチャール・ブラデーシュ州、ウエスト・カメン県およびタワンの鳥類相、ヒマラヤ学誌, 17, 113-119 (2016)	
アジアの稲作圏の農地生態系は、多様な野生生物の生息環境でもある。アジアの農地生態系に学び、身近な環境で生物多様性との共生を目指す。	

伊東 和彦 准教授	博士(理学)
担当 科目	生物・環境特論 環境教育特別演習Ⅰ～Ⅳ 環境教育特別研究 バイオ環境特別演習Ⅰ～Ⅵ バイオ環境特別研究
[論文] Simple practical processing of a large single crystal from a large amount of a complete stoichiometric mixture in two-component system. <i>J. Cryst. Growth</i> , 271, 398-402(2004)	
酸化物の中で特にケイ酸塩を中心とした大型単結晶の合成とその物性の解析を行っている。これらの固体物性の理解はエネルギー環境に配慮した高効率素子の開発を可能にする。	

里山環境研究分野

鈴木 玲治 教授	博士(地域研究)
担当 科目	生物・環境特論 里山環境特別演習Ⅰ～Ⅳ 里山環境特別研究 バイオ環境特別演習Ⅰ～Ⅵ バイオ環境特別研究
[論文]Effect of slash-and-burn on nutrient dynamics during the intercropping period of taungya teak reforestation in the Bago Mountains, Myanmar. <i>Tropical Agriculture and Development</i> ,53,82-89(2009)	
東南アジアや日本の農山村において、生物資源の持続的利用を可能としてきた在来知に着目し、森林環境学、土壌学、地域情報学の観点から、地域の生態環境に調和した農業や森林利用の将来像を検討。	

バイオサイエンス領域

福田 裕穂 教授	理学博士
担当 科目	バイオ環境特別演習Ⅰ～Ⅵ、バイオ環境特別研究
[論文]Dodeca-CLE peptides as suppressors of plant stem cell. <i>Science</i> 313, 842-845 (2006). Initiation of cell wall pattern by a Rho- and microtubule-driven symmetry breaking. <i>Science</i> 337, 1333-1336 (2012).	
植物の木の細胞を対象に、細胞中での情報伝達から、植物バイオマス変変までを研究します。	

生物有機化学研究分野

清水 伸泰 教授	博士(農学)
担当 科目	分子生命科学特論 生物有機化学特別演習Ⅰ～Ⅳ 生物有機化学特別研究 バイオ環境特別演習Ⅰ～Ⅵ バイオ環境特別研究 インタナショナル A、B
[論文]Biosynthetic pathway of aliphatic formates via a Baeyer-Villiger oxidation in mechanism present in astigmatid mites. <i>PNAS</i> , 114, 2616-2621 (2017)	
土壌動物や昆虫が出すにおいを分析し、その化学構造やどのような行動に関わるのかを明らかにする。体内での生成機構を解明する基礎研究を遂行する一方、より発展的に新しい機能の応用を目指す。	

分子生物学研究分野

寶閑 淳 准教授	博士(理学)
担当 科目	分子生命科学特論 分子生物学特別演習Ⅰ～Ⅳ 分子生物学特別研究 バイオ環境特別演習Ⅰ～Ⅵ バイオ環境特別研究
[論文]Mitochondrial impairment triggers cytosolic oxidative stress and cell death following proteasome inhibition. <i>Sci Rep</i> .4, 5896(2014)	
神経変性疾患をはじめとする様々な疾患発症の原因となる細胞内タンパク質代謝の破綻とレドックス異常が互いにどのように関わっているのかをオルガネラレベルで解析し、その機構を解明する。	

奥 公秀 准教授	博士(農学)
担当 科目	分子生物生命科学特論 分子生物学特別演習Ⅰ～Ⅳ 分子生物学特別研究 バイオ環境特別演習Ⅰ～Ⅵ バイオ環境特別研究 グリーンバイオ最先端技術特論
[著書]「オートファジー分子メカニズムの理解から病態の解明まで」南山堂 82-89 (2018) [論文]Evidence for ESCRT- and clathrin-dependent microautophagy. <i>J. Cell Biol.</i> ,216,3263-3274(2017)	
細胞レベルでの健康を維持するために、細胞内で物質を分解しリサイクルする仕組み、その中でも特にオートファジーとよばれる機構を、酵母や哺乳類培養細胞を用いて研究している。	

微生物機能開発学研究分野

萩下 大郎 教授	博士(農学)
担当 科目	生物機能開発特論 微生物機能開発学特別演習Ⅰ～Ⅳ 微生物機能開発学特別研究 バイオ環境特別演習Ⅰ～Ⅵ バイオ環境特別研究
[論文]Breeding of a cyclic imide-assimilating bacterium, <i>Pseudomonas putida</i> s52, for high efficiency production of pyruvate. <i>Biosci. Biotechnol. Biochem.</i> ,77,1650-1654 (2013)	
独自性の高い産業技術の開発に向けた新規微生物の探索と基礎的・応用的な面から酵素化学的な微生物機能の解明に取り組んでいる。	

食品機能学研究分野

矢野 善久 教授	理学博士
担当 科目	生物機能開発特論 食品機能学特別演習Ⅰ～Ⅳ 食品機能学特別研究 バイオ環境特別演習Ⅰ～Ⅵ バイオ環境特別研究
[著書]『ビタミンE研究の進歩』(ビタミンE研究会編,共立出版, 1994) [論文]LIS1 and NDEL1 coordinate the plus-end-directed transport of cytoplasmic dynein. <i>EMBO J.</i> ,27,2471-2483 (2008)	
食品に含まれる機能成分、特に生活習慣病に対し予防や改善効果を持つ成分の探索法の開発とその成分の生理機能解析。	

植物バイオテクノロジー研究分野

高瀬 尚文 教授	博士(理学)
担当 科目	生物機能開発特論 植物バイオテクノロジー特別演習Ⅰ～Ⅳ 植物バイオテクノロジー特別研究 バイオ環境特別演習Ⅰ～Ⅵ バイオ環境特別研究
[論文]The improvement and enhancement of phyto-ingredients using new technology of genetic recombination. In <i>Biotechnology in Functional Foods and Nutraceuticals</i> . Eds.D.Bagchi,F.C.Lau,D.K.Ghosh,CRC Press,pp157-180 (2010)	
有限な地球における人類の活動と生存の持続を目的に、物質循環の流れを踏まえ、植物の機能を巧みに利用したバイオテクノロジーの研究開発に取り組んでいる。	

櫻間 晴子 講師	博士(農学)
担当 科目	生物機能開発特論 微生物機能開発学特別演習Ⅰ～Ⅳ 微生物機能開発学特別研究 バイオ環境特別演習Ⅰ～Ⅵ バイオ環境特別研究
[論文]1,3-1,4- α -L-fucosynthase that specifically introduces Lewis a/x antigens into type-1/2 chains. <i>J. Biol. Chem.</i> 287, 16709-16719 (2012)	
微生物スクリーニング法により汚染物質の除去に有用な酵素を探索し、タンパク質工学的手法によりその酵素の機能改変を行うことで、それらを活用した環境調和型浄化技術の開発を目指している。	

藤田 裕之 教授	農学博士
担当 科目	生物機能開発特論 食品機能学特別演習Ⅰ～Ⅳ 食品機能学特別研究 バイオ環境特別演習Ⅰ～Ⅵ バイオ環境特別研究
[著書]Marine nutraceuticals and functional foods, CRC press(2008) [論文]Efficacy and safety chinese black tea (Pu-Erh) extract in healthy and hypercholesterolemic subjects. <i>Ann. Nutr. Metab.</i> 53, 33-42 (2008)	
食品中には、未知の体調節機能を持つ物質が多く存在している。その中でも特にメタボリックシンドロームを中心に改善作用を示す食品を探索し、その活性成分の単離・構造決定、さらには構造活性相関にも取り組む。	

Prieto Rafael 准教授	博士(理学)
担当 科目	生物機能開発特論 植物バイオテクノロジー特別演習Ⅰ～Ⅳ 植物バイオテクノロジー特別研究 バイオ環境特別演習Ⅰ～Ⅵ バイオ環境特別研究
[論文]The <i>axr3-1/dmr4</i> auxin-hypersensitive mutant of <i>Arabidopsis thaliana</i> defines a link for integration of auxin and brassinosteroid mediated root elongation. <i>Plant Biotech.</i> , 32, 125-137 (2015)	
植物における環境ストレスへの適応、ファイトレメディエーション、栄養代謝、オーキシシンやブラシノステロイドなどの植物ホルモンの調節機構などについて研究する。	

工学研究科

京都太秦キャンパス

Graduate School of Engineering

博士課程前期／博士課程後期 機械電気システム工学専攻

CONCEPT

研究科コンセプト

キーワードは“創造”。複数分野を統合するアプローチで、「新たな技術や学問を創り出せる人材」を育成する大学院。

新しい概念を“創造”することによって次世代の産業の創出と新たな価値の創出に貢献できる高度な専門知識を有した技術者・研究者を育成します。

グローバルに活躍する国際色あふれる教員陣が最先端の研究設備を揃えた研究環境で ORT (On the Research Training) を実施します。また、工学研究科では海外からの留学生の受け入れを積極的に行い、グローバルな環境での学修、研究やコミュニケーションの機会が生まれます。



博士課程 前期

養成する人物像

機械電気システム工学分野を構成する材料、エネルギー、情報、システムのいずれかの領域を中心として、次世代の機械電気システムに必須の専門領域の高度な知識を他領域の知識と関連づけながら修得させることによって次世代の産業の創出と新たな価値の創出に貢献できる専門技術者及び高度専門技術者を養成します。



博士課程 後期

養成する人物像

機械電気システム工学分野を構成する材料、エネルギー、情報、システムの4領域のうち専門とする1領域を深く学修し、同時に関連する3領域の知識も深化させることで、それぞれの高度な専門的知識に加え、領域横断的な総合領域において高度な専門的知識を深化させ、多様な学問分野の動向と社会ニーズを踏まえた社会的ニーズの高い問題発見能力を有し、新しい概念を“創造”することによって次世代の産業の創出と新たな価値の創出に貢献できる研究者を養成します。

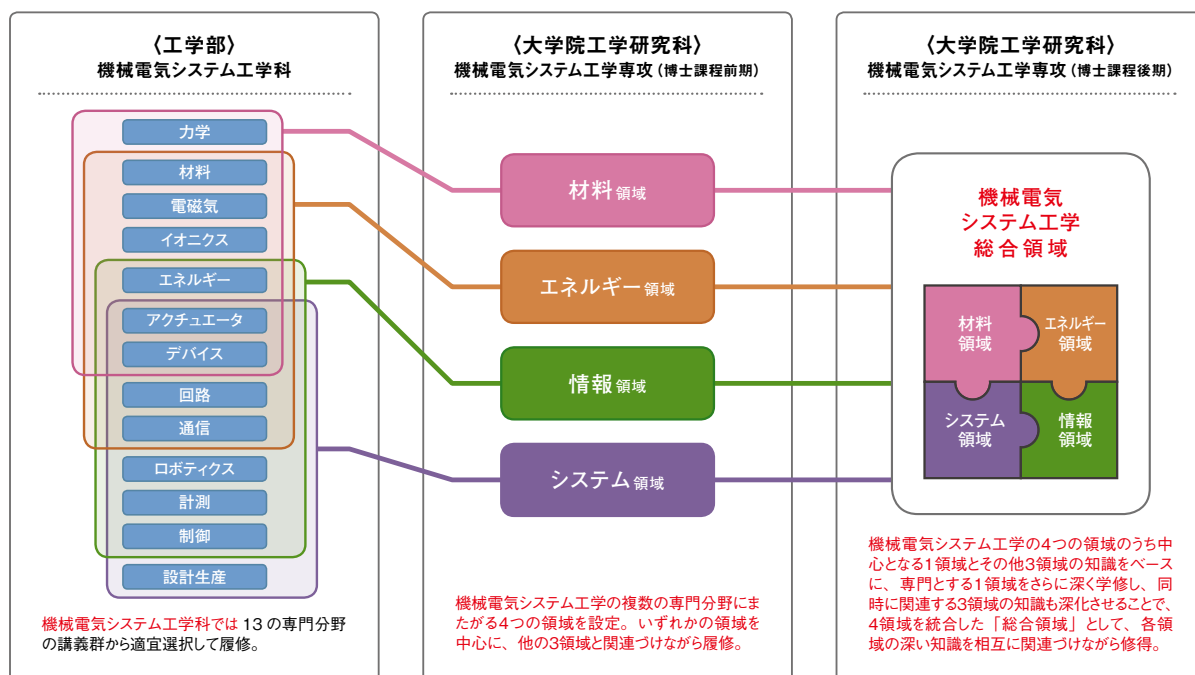
めざすキャリア

- ☐ メーカーの設計・生産・開発・品質管理の各部門の高度専門技術者
- ☐ 研究者

めざすキャリア

- ☐ メーカーにおける研究開発者
- ☐ 大学および高等研究機関における研究者

「工学部」と「大学院工学研究科(博士課程前期・後期)」の関係説明図



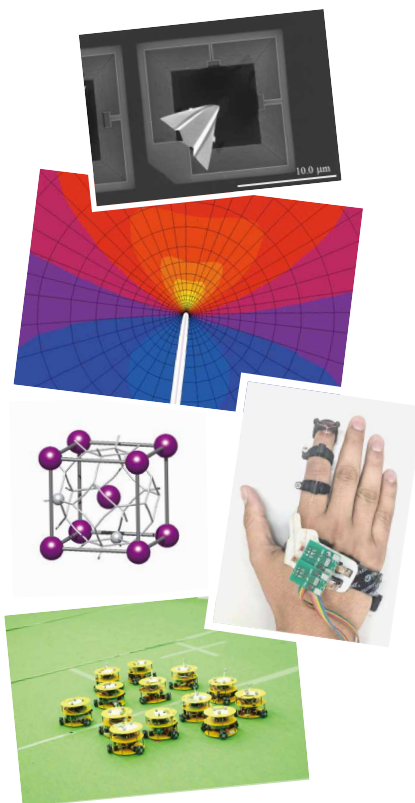
CURRICULUM

カリキュラム

次世代の電気機械システムに必須の高度な専門知識を修得し、新しい発想で産業にイノベーションをもたらして新たな価値を生み出すことができる高度専門技術者・研究者の育成をめざします。

カリキュラムマップ(博士課程前期)

		教 育 課 程			
セメスタ		1	2	3	4
語学科目	科学技術英語	科学技術英語I	科学技術英語II		
専門科目(基幹)	材料	先端機械電気システム工学通論 エレクトロニクス材料の物理と化学	先端機械電気システム工学通論 MEMS 技術と材料		
	エネルギー		風力発電テクノロジー		
	情報	大学院エンジニアのためのコンピュータ数学			
	システム	ロボティクス特論			
専門科目(発展)	材料			計算材料科学特論	
	エネルギー			半導体電力変換技術	半導体パワーデバイスとモジュールのコンピュータ支援設計
	情報				スクリプト言語と仮想マシン
	システム			システム設計論	リモートセンシング
研究分野科目		特別演習I	特別演習II	特別演習III	特別演習IV
		特別研究I	特別研究II	特別研究III	特別研究IV



専門科目(基幹)と語学科目は1年生、専門科目(発展)は2年生で履修します。

研究分野関係科目は主研究指導教員と副研究指導教員(複数)という研究指導体制をとり、2年間を通じて各自の研究テーマに応じた十分な研究指導を行います。

カリキュラムマップ(博士課程後期)

		教 育 課 程					
セメスタ		1	2	3	4	5	6
語学科目	科学技術英語			科学技術英語III		科学技術英語IV	
専門科目	材料	エレクトロニクス材料の物理と化学 計算材料科学特論	MEMS 技術と材料	機械電気システム工学特論(材料)			
	エネルギー	半導体電力変換技術	風力発電テクノロジー 半導体パワーデバイスとモジュールのコンピュータ支援設計	機械電気システム工学特論(エネルギー)			
	情報	大学院エンジニアのためのコンピュータ数学	スクリプト言語と仮想マシン		機械電気システム工学特論(情報)		
	システム	システム設計論 ロボティクス特論	リモートセンシング		機械電気システム工学特論(システム)		
研究分野科目		特別演習I	特別演習II	特別演習III	特別演習IV	特別演習V	特別演習VI
		特別研究I	特別研究II	特別研究III	特別研究IV	特別研究V	特別研究VI

専門科目は博士課程前期の科目に加え、機械電気システム工学特論(材料・エネルギー・情報・システム)の4科目を開講します。

研究分野関係科目は主研究指導教員と副研究指導教員(複数)という研究指導体制をとり、3年間を通じて各自の研究テーマに応じた十分な研究指導ができるようにするとともに、主研究指導教員の所属する領域以外の3領域の教員を交えて発表及び討議を行います。

ADMISSION POLICY

求める人物像

以下の要件を満たし、本学大学院で学び、新しい未来を切り開く熱意のある方の応募をお待ちしています。

■博士課程前期

1. グローバルな視点で社会の未来に繋がる課題の解決に意欲をもって携わりたい者。
2. 機械工学と電気工学に跨る分野もしくは、機械電気システム工学分野の基礎的な知識を有している者。
3. 機械工学と電気工学に跨る分野もしくは、機械電気システム工学分野に科学的・学術的な観点からアプローチし、専門性を深めて課題に挑戦する意欲を有する者。

■博士課程後期

1. グローバルな視点で社会の未来に繋がる課題の解決に意欲をもって携わりたい者。
2. 機械工学と電気工学に跨る分野もしくは、機械電気システム工学分野の専門的な知識を有する修士またはそれと同等の学力を持つ社会人。
3. 機械工学と電気工学に跨る分野もしくは、機械電気システム工学分野に科学的・学術的な観点からアプローチし、専門性を深めて、複雑で複合的な問題に挑戦する意欲を有する者。

TEACHING STAFF

教員紹介

田畑 修 教授 博士(工学)

担当 先端機械電気システム工学通論 MEMS 技術と材料
科目 機械電気システム工学特論 (情報) 特別演習I~VI
特別研究I~VI

著書 センサ、3次元微細加工、薄膜材料機械的物性評価、微小生体模倣システム、DNA ナノテクノロジーなどの分野における英語論文170編、国際学会発表300件、国内口頭発表200件以上。IEEE フェロー、電気学会フェロー。

論文 「小さな機械が創る大きな機械」をスローガンにして、ミリメートルからナノメートルの大きさの構造と機械・電気・化学・光・バイオなどの機能を統合して新しい機械電気システムをつくりだす研究に取り組んでいる。

今井 欽之 教授 博士(工学)

担当 機械電気システム工学特論 (材料)
科目 特別演習I~VI 特別研究I~VI

著書 [著書] 久保田 他 (共著)「ホログラム最新技術〜感光材料の開発から実製品への応用まで〜」、情報機構、(2006).
[論文] T. Imai et al, "Fast response varifocal lenses using $\text{KTa}_{1-x}\text{Nb}_x\text{O}_3$ crystals and a simulation method with electrostrictive calculations," *Appl. Opt.*, vol. 51, no. 10, pp. 1532-1539, (2012). など

論文 専門は単結晶を材料とした光制御デバイス、ホログラフィー。単結晶の育成から取り組んでおり、近年は非常に強い電気光学効果を持つ単結晶を用いた、光線を高速に曲げる (走査する) デバイスの開発とその装置応用に重心を置いている。

堀井 滋 教授 博士(工学)

担当 エレクトロニクス材料の物理と化学
科目 機械電気システム工学特論 (材料) 特別演習I~VI 特別研究I~VI

著書 「実用的3次元結晶配向法としての回転変調磁場配向への取り組みの現状」、粉体および粉末冶金 67 (2020) 213.
論文 「現代界面コロイド化学の基礎 (第4版)」(2019) (分担執筆)

論文 主に酸化物材料を対象に、磁場配向プロセス開発や材料化に向けた物質設計指針の構築に関わる実験的研究を、電氣的・磁氣的・結晶構造の観点から進めています。

生津 資大 教授 博士(工学)

担当 MEMS 技術と材料 特別演習I~VI 特別研究I~VI
科目

著書 "Strength of Carbon Nanotubes Depends on Their Chemical Structures", *Nature Communications* (2019) ほか 300 件以上

論文 ナノテクノロジーを駆使した独創的な材料研究を推進しています。独自の実験技術を駆使して肉眼で見えない物に触れたり加工したり強度を測ったりして、ナノ〜原子サイズの材料の振る舞いを明らかにしていきます。

川上 浩司 教授 博士(工学)

担当 システム設計論 特別演習I~VI 特別研究I~VI
科目

著書 不便から生まれるデザイン (化学同人、2011)、不便益という発想 (インプレス、2017)、不便益 (近代科学社、2017)、アーティファクトデザイン (共立出版、2018)、不便益のススメ (岩波、2019)、他多数

論文 システムデザイン論。人工的にシステム (モノやコト) をデザインする (創り出す) ときの指針を探索する。人とシステムが環境を含めて「共生」する状態にするための指針として「不便益」の実現を握る。

沖 一雄 教授 博士(都市・地域計画学)

担当 リモートセンシング 特別演習I~VI 特別研究I~VI
科目

著書 K. Oki, Noda, K., Yoshida, K., Azechi, I., Maki M., Honma, K., Hongo C. and Shirakawa, H., Development of an Environmentally Advanced Basin Model in Asia, [Crop production] (Aakash Goyal, ed.), INTECH. 17-48 (2013) DOI:10.5772/54926
[論文] K. Oki, H. Oguma, and M. Sugita, Subpixel Classification of Alder Trees using Multitemporal Landsat Thematic Mapper Imagery, *PE& RS, Vol.68, No.1*, pp.77-82 (2002).

論文 ドローンや人工衛星などのリモートセンシング技術によって観測されたビッグデータから付加価値情報を抽出するための手法開発をおこなっている。また、他分野との連携によるイノベーション創出に興味がある。

福島 宏明 教授 博士(情報学)

担当 ロボティクス特論 機械電気システム工学特論 (システム)
科目 特別演習I~VI 特別研究I~VI

著書 [論文] Leader-Follower Navigation in Obstacle Environments While Preserving Connectivity Without Data Transmission, *IEEE Transactions on Control Systems Technology*, Vol. 26, No. 4, 2018. ほか。

論文 群ロボットシステムやヘビ型ロボットなどの複雑で自由度の高いダイナミクスもつシステムを対象とし、環境の変化にも柔軟に対応できる制御手法の構築を目指して研究に取り組んでいる。

西 正之 准教授 博士(工学)

担当 エレクトロニクス材料の物理と化学
科目 特別演習I~VI 特別研究I~VI

著書 [論文] "Nanoscale Raman imaging with nanogold-topped AFM probes fabricated by area-selective electroless deposition," *J. Electrochem. Soc.*, 165, D711 (2018); "Focused-ion-beam-enabled electroless growth of gold nanoparticles on silicon," *J. Ceram. Soc. Jpn.*, 126, 614 (2018).

論文 個々のナノ材料、あるいはもっと大きな材料のナノ領域がどのような物質・化学結合状態からなっているのか、そしてそれらが空間的にどのように分布しているのかを知るための顕微分光法に関する探針をオリジナルの技術をベースに作製しています。

イアン ピュマータ
Ian PIUMARTA 教授 Ph.D. in Computer Science (イギリス)

担当 大学院エンジニアのためのコンピュータ数学
科目 スクリプト言語と仮想マシン 特別演習I~VI 特別研究I~VI

著書 Ian Piumarta. *Open, extensible composition models*. In Proceedings of the 1st Workshop on Free Composition (FREECO) 2011

論文 Configurable and meta-programmable systems that observe and analyse themselves or modify their own implementations.

中村 康一 教授 博士(工学)

担当 計算材料科学特論※ 特別演習I~VI 特別研究I~VI
科目

著書 [論文] First-principles simulation on thermoelectric properties of transition metal dichalcogenide monolayers, *Jpn. J. Appl. Phys.* 57, 06HE04 (2018). ほか多数

論文 量子化学的・量子物理学的手法に基づく材料物性 (熱電変換特性、電気機械特性など) や材料反応に関する理論的研究とシミュレーションのほか、相対論的電子状態理論を用いた材料系への応用計算を行っている。

アルベルト カステラZZィ
Alberto CASTELLAZZI 教授 Ph.D. in Electrical Engineering (ドイツ)

担当 半導体電力変換技術
科目 半導体パワーデバイスとモジュールのコンピュータ支援設計 特別演習I~VI 特別研究I~VI

著書 A. Castellazzi, E. Gupinar, Z. Wang, A. S. Hussein, P. Garcia Fernandez, *Impact of Wide-Bandgap Technology on Renewable Energy and Smart-Grid Power Conversion Applications Including Storage*, *Energies* 2019, 12(23), 4462; <https://doi.org/10.3390/en12234462> (Invited - Feature paper)

Wide-bandgap (WBG) semiconductor devices are making their way pivotal domains of societal infrastructure such as sustainable energy generation and conversion. Experience has highlighted a number of gains that can be drawn from this technology even when used as a straightforward drop-in substitute of silicon in established applications. Incremental in nature, these gains enable interesting progress beyond state-of-the-art. With particular reference to renewable energy power conversion and solid-state transformation, in the context of transport applications and incorporating a storage device, this paper reports on the understanding generated over the past years and points out some specific technology and circuit design requirements to ensure overall beneficial impact of the adoption of WBG technology.

松本 龍介 准教授

博士(工学)

担当	計算材料科学特論※ 特別演習I～VI 特別研究I～VI
科目	
著書	[著書] "Atomistic Simulations of Hydrogen Effects on Lattice Defects in Alpha Iron", <i>Handbook of Mechanics of Materials</i> , Chapter 10, Springer, 2019.
論文	[論文] 英文誌を中心に 60 編超執筆

金属材料の変形と破壊機構や、強度信頼性評価に関する研究を行っている。特に電子・原子レベルのシミュレーション手法を用いて、水素環境での材料強度の劣化（水素脆化）機構の解明に取り組んでいる。

岸田 逸平 准教授

博士(工学)

担当	エレクトロニクス材料の物理と化学
科目	計算材料科学特論※ 特別演習I～VI 特別研究I～VI
著書	The graph-theoretic minimum energy path problem for ionic conduction, <i>AIP Advances</i> , 5 (10), p. 107107 (2015).
論文	

「誰かが電池を改善してくれたらいいなあ」とぼんやり眺めて過ごすよりも、自分がその電池を改善して社会に貢献する。そんなことを夢見て、私は主に電池材料の研究を理論計算を用いて進めている。

高橋 亮 准教授

博士(理学)

担当	半導体電力変換技術
科目	機械電気システム工学特論（エネルギー） 特別演習I～VI 特別研究I～VI
著書	Ryo Takahashi, Keiji Tashiro and Takashi Hikiyama, "Router for Power Packet Distribution Network: Design and Experimental Verification", <i>IEEE Transactions on Smart Grid</i> , vol. 6, no. 2, pp. 618-626, March 2015.
論文	

電力ルーティングシステムなど、情報通信システムおよび電気システムを横断し、両システムを連系統合したサイバーフィジカルシステムによる革新的システムおよびその産業応用についての研究を行う。

佐藤 啓宏 講師

博士(工学)

担当	ロボティクス特論 特別演習I～VI 特別研究I～VI
科目	
著書	"VR/MR ガイドツアーシステムの開発と運用" 日本 VR 学会、19. 2. 247-254, 2014. "タングルトポロジーを用いたロボットハンドによる人間の持ち替え動作の模倣" 日本ロボット学会誌、33、7、514-523、2015. 共著等
論文	

コンピュータビジョンや VR/MR を使ってアームロボットや車両型ロボットを遠隔制御や自動制御で動かす。最近の興味は、ロボットが自律的に視覚を制御して必要な情報を自動で取得する能動視覚にある。

フアット ク チ ャ ッ ク Fuat KUCUK 講師

Ph.D. in Electrical
Machines and Power
Electronics (トルコ)

担当	風力発電テクノロジー 特別演習I～VI 特別研究I～VI
科目	
著書	F. Kucuk, E. Sunan, "Performance Analysis of an Alnico-Based Permanent Magnet Reluctance Generator for Wind Energy Conversion System", <i>IEEJ Transactions on Electrical and Electronic Engineering</i> , vol.13, no. 9, pp. 1296-1302, 2018.
論文	

Wind energy becomes significant source of electricity production in the world. This course provides a thorough introduction to modern wind power generation systems and their control technologies.

マーティン ゼ ラ Martin SERA 講師

Ph.D. in Mathematics
(ドイツ)

担当	特別演習I～VI 特別研究I～VI
科目	
著書	Chern forms of hermitian metrics with analytic singularities on vector bundles, joint with R. Lärkäng, H. Raufi & E. Wulcan, <i>Indiana Univ. Math. J.</i> 71 (2022), no. 1, 153-189 Chern classes of singular metrics on vector bundles, joint with R. Lärkäng, H. Raufi & J. Ruppenthal, <i>Advances in Mathematics</i> 326 (2018) 465-489 A generalization of Takegoshi's relative vanishing theorem, <i>Journal of Geometric Analysis</i> 26 (2016) no. 3, 1891-1912
論文	

His research interest is in the field of complex geometry. Using L^2 -theory and coherent sheaves, he analysed the geometry of singular complex spaces. Recently, he studies singular Hermitian metrics on vector bundles.

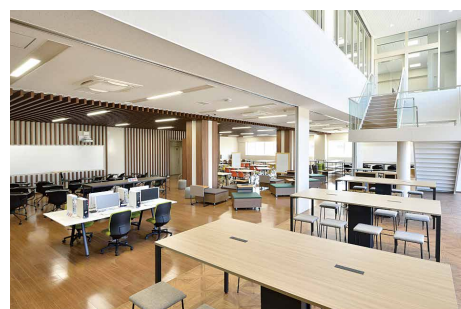
リャン ジールー

梁 滋璐 講師

博士(工学)

担当	特別演習I～IV 特別研究I～IV
科目	
著書	Liang Z, Ploderer B. (2020) "How does Fitbit measure brainwaves": a qualitative study into the credibility of sleep-tracking technologies. <i>PACM on Interactive, Mobile, Wearable and Ubiquitous Technologies (IMWUT)</i> 4(1):Article 17. ほかも多数
論文	

人をもっと健康的でイキイキと生きるためのウェアラブルコンピューティングと情報処理技術の研究に取り組んでいる。データ解析、人間とコンピュータのインタラクションなど幅広い学際的な研究課題に挑戦している。



経営学研究科

【2022年4月開講】

京都太秦キャンパス

Graduate School of Business Administration

経営管理専攻(ビジネススクール) 修士課程 [修士(経営学)]

Major in Business Administration [Master of Business Administration]

CONCEPT

研究科コンセプト

グローバルな視点を持ち、 新たな時代で活躍できる 経営人材を養成

デジタル化の加速、AIなどの技術革新、SDGsやESGといった環境や社会への意識の高まりなど、あらゆる状況が変化し続け、将来の予測が困難な現代。時代と人々の意識の変化に対応し、イノベーションを生み出す人材を養成します。教員はグローバルに活躍してきた実務家や研究者で構成され、経営・経済学の知識に加え、DX（デジタルトランスフォーメーション）などの“先端領域”を学ぶことができ、さらに多数の専門知識を深め、相互関係を理解し統合する論理的思考力を修得します。



2021年9月開催 MBA開講記念フォーラム ―先端から変えるチカラを生み出す―

めざすキャリア

- | | | |
|--|------------------------------------|--|
| ☐ 企業における取締役兼トップ経営への参画 | ☐ 金融機関 | ☐ 流通 |
| ☐ 新会社を設立する経営者 | ☐ 製造業 | ☐ 通信 |
| ☐ 起業家 | ☐ コンサルティング業 | ☐ SI（システムインテグレーション） |

CURRICULUM

カリキュラム

経営学研究科経営管理専攻の養成する人材像及び目的を実現するために、必要な授業科目及び研究指導を体系的・組織的に実施する教育課程を編成します。

本専攻のカリキュラム・ポリシーは以下のとおりです。

1. 授業科目を「コア科目」、「応用科目」及び「演習科目」の3つに分け、体系的に編成された教育課程を1年次から積み上げる形で履修できるようにする
2. 研究指導教員（スーパーバイザー）の指導の下で、学部時代の専門が理系の場合、文系で経済経営の場合、及び文系のその他の場合に分けて、それぞれが経営管理専攻で開講される応用科目・演習科目をスムーズに履修できるように、コア科目、既存の経済学研究科の開講科目、経済経営学部で開講されている科目の履修を促す
3. 1年生の段階から学位論文仮題目を設定し、論文審査の客観性・透明性の確保や研究水準の向上を図る観点から、本学教員や院生が参加可能な「中間報告会」、及び「最終試問試験」での報告と討論を義務化し、段階的指導を行う

コア科目

- ☐ 経営戦略
- ☐ ファイナンス
- ☐ マーケティング
- ☐ アカウンティング
- ☐ 人的資源管理
- ☐アントレプレナーシップ
- ☐ 技術管理
- ☐ 経済学
- ☐ データ解析

応用科目

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ☐ DX経営戦略 ☐ リーダーシップ ☐ 企業変革 ☐ グローバル経営 ☐ ブランドマネジメント ☐ ESG論 ☐ M&A ☐ 資産運用論 ☐ 国際財務報告 ☐ 国際金融 ☐ イノベーション ☐ CSV ☐ 税法概論 ☐ 企業改革税制 | <ul style="list-style-type: none"> ☐ 税務会計 ☐ 実践簿記 ☐ 国際課税 ☐ 国際経済学 ☐ 財政学 ☐ 比較会社法 ☐ 異文化コミュニケーション ☐ 技術開発 ☐ 経営管理特殊講義I:ものづくり経営学 ☐ 経営管理特殊講義II:リスクと保険 ☐ 経営管理特殊講義III:リーダーシップとコミュニケーション |
|--|--|

演習科目

- ☐ 研究指導

ADMISSION POLICY

求める人物像

経営学研究科は、グローバルな視点を持ち、新たな時代で活躍できる経営人材を養成することを目指しているため、具体的には、次のような資質と能力を持つ学生を求めています。

1. 経営管理の理論・実践を修得したいという強い意欲を有している者
2. 国際的に通用する修士課程学位の授与のため、高い英語力を有している者
3. 新しい知見を社会実装してイノベーションを起こす人材の育成を目的とした教育課程とプログラムに対して、旺盛な知的意欲と社会的役割をもって参加し、相互に切磋琢磨できる資質を有する者
4. 幅広い教養と経営学など専門分野について基礎知識・能力を有し活用できる者

FACULTY

教員紹介

徳賀 芳弘 教授 博士(経済学) 担当 研究指導 科目 著書 『国際会計論—相違と調和—』中央経済社、2000年。 Accounting Regulation in Japan: Evolution and Development from 2001 to 2015 (1st ed.). Routledge, 2019. (共著) 論文 外生的な会計基準 (IFRS) が導入された場合に導入国において発生するコンフリクトと導入国政府・企業のコンフリクト解消行動の分析。	名和 高司 教授 経営学修士 担当 経営戦略 アントレプレナーシップ DX経営戦略 科目 企業変革 グローバル経営 イノベーション CSV 著書 『バーパス経営—30年先の視点から現在を捉える—』東洋経済新報社、2021年。 『経営改革大全—企業を壊す100の誤解—』日本経済新聞出版社、2020年。 論文 バーパス経営の実践と、その牽引力となるイノベーションに関する研究。	跡田 直澄 特任教授 博士(経済学) 担当 財政学 研究指導 科目 著書 『企業税制改革—実証分析と政策提言—』(編著)日本評論社、2000年。 『日本の所得課税を振り返る』『フィナンシャル・レビュー』第50巻、29-92頁、1999。(共著) 論文 家計や企業の選択行動モデルに基づいた計量分析による税・社会保障政策の在り方研究。また、非営利組織および寄付の実態分析に基づいた寄付税制の在り方の研究。
小野里 光広 教授 修士(法学) 修士(国際経営学) 担当 比較会社法 科目 著書 『イギリス法における取締役の経営判断についての責任否定の枠組み』『国際商事法務』第50巻2号、166-171頁、2022。 『イギリス会社法における取締役の「第三者から利益を受領してはならない義務」』『国際商事法務』第48巻12号、1707-1712頁、2020。 論文 イギリス会社法を中心として取締役の義務と責任について、日本法やアメリカ法などと比較しながら研究を行なっている。会社法におけるコーポレート・ガバナンス分野について、比較法的観点から検討していきたい。	加藤 康之 教授 経済学博士 担当 ファイナンス ESG論 資産運用論 研究指導 科目 著書 『ESG投資の研究—理論と実践の最前線—』(編著)一灯舎、2018年。 『社会的リターンは経済的リターンにつながるか?—因果関係モデルによるESG投資の未来シミュレーション分析—』『証券アナリストジャーナル』第60巻2号、67-79頁、2022。(共著) 論文 専門は投資理論であり、現在は、主に以下のテーマを研究。 (1) ESG投資における社会的インパクトと経済的リターンとの関係 (2) 機関投資家の ESG 投資戦略 (3) 企業における ESG 経営と企業価値	清水 裕子 教授 博士(経営管理) 担当 国際経済学 研究指導 科目 著書 The Locavore's Dilemma: In Praise of the 10,000-Mile Diet. <i>The Independent Review</i>, 17(4), 603-605, 2013. (共著) Blowing Hot Air on the Wrong Target? Critique of the fossil fuel divestment movement in higher education. <i>Canadian Electronic Library</i>, 2016. 論文 グローバル化の発展とその経済・社会・環境への影響を、国際貿易(特にサプライチェーン)の視点から分析・研究。歴史的観点や公共政策、環境政策もカバーし学際的に研究。
谷口 隆義 教授 博士(経済学) 担当 税法概論 企業改革税制 税務会計 研究指導 科目 著書 『ミャンマー会計制度の研究』中央経済社、2019年。 『ミャンマーにおける企業会計の現状と課題—軍事政権の残留—』『国際会計研究学会年報』2017年度第1・2合併号、147-159頁。 論文 (1) アジア諸国の会計制度に研究 ミャンマーを中心に会計制度の歴史を検証し、その運用実態を調査。 (2) 企業改革税制 組織再編税制を中心にして、企業の周辺環境の変化に対応し、または戦略的に自ら体制整備を行う場合の税制検討。	西村 周三 教授 経済学博士 担当 データ解析 研究指導 科目 著書 Discrete Choice Experiment of Smoking Cessation Behavior in Japan. <i>Tobacco control</i>, 16(5), 336-343, 2007. (共著) 『70代と90代はどのように異なるか?日本の高齢者の人口動態、家族、家計支出、健康状態などの比較』『生命保険論集』第216号、7-29頁、2021。 論文 社会保障の経済学、医療経済学について研究。	森 一彦 教授 社会学修士 担当 マーケティング ブランドマネジメント 研究指導 科目 著書 『インダストリーイノベーション時代のブランディング—「モードシフト」するブランディングからの問題提起—』『マーケティングジャーナル』第39巻1号、6-23頁、2019。 デジタルトランスフォーメーションと行動喚起型広告コミュニケーション—コンテンツとしての広告概念の可能性に向けて—『日経広告研究所報』第53巻5号、3-9頁、2019。 論文 デジタル化による社会・経済・産業・企業などの変化に並行して、 (1) 企業の目的や存在意義(バーパス)からのブランディング、 (2) 新しいサービスにおける動き(S-DL、サービスデザイン)からのマーケティング、 (3) 人間の枠組みからのクリエイティブ・アプローチ(デザイン思考、アート思考)などをテーマに研究している。
呉 綺 准教授 博士(経営学) 担当 実践簿記 研究指導 科目 著書 Environmental Management Control Tools for Promoting Sustainable Consumption and Production in Thai and Vietnamese Companies. <i>Global Environmental Research</i>, 25(1&2), 51-56, 2021. (共著) Material Flow Cost Accounting (MFCA) for the Circular Economy: An Empirical Study of the Triadic Relationship between MFCA, Environmental Performance, and the Economic Performance of Japanese companies. <i>Journal of Environmental Management</i>, 303, 114219, 2022. (共著) 論文 企業のサステナビリティ会計・経営に関する実証研究。現在は、サーキュラーエコノミーを指向する環境マネジメント・コントロール・システムの構築およびサステナビリティ会計の国際的研究を課題に取り組んでいる。	道和 孝治郎 准教授 博士(経済学) 担当 国際金融 研究指導 科目 著書 『「新しい開放マクロ経済学」に基づく金融政策の国際波及効果—ドル建て取引を仮定した日米ANEIS 3ヶ国モデルによる分析—』『経済研究』第59巻1号、30-45頁、2008。 Optimal Monetary Policy in an Economy with Vertical Production and Trade: An Analysis Based on the Perspective of Local Currency Pricing. <i>Japan and the World Economy</i>, 36(C), 11-20, 2015。 論文 Obstfeld and Rogoff (1995) が開発したニューオープンエコノミーマクロエコミックスモデルに基づき、金融財政政策の国際的波及効果を研究している。特に、現地通貨建て取引(LCP)の役割に焦点を当ててその効果を分析している。	石原 卓典 講師 修士(経済学) 担当 経済学 科目 著書 The Effect of Information Provision on Stated and Revealed Preferences: A Field Experiment on the Choice of Power Tariffs Before and After Japanese Retail Electricity Liberalization. <i>Environmental and Resource Economics</i>, 1-27, 2022. (共著) 『寄付行動を促すための介入の効果は寄付先活動によって異なるか?—全国規模オンライン実験と機械学習に基づく検証—』『行動経済学』第12巻大会特別号、S14-S17、2019。(共著) 論文 実際の生活の中で仮説検証を行うフィールド実験を用いて、人間の経済心理の限定合理性に着目した行動経済学についての研究をしている。最近では節電や健康行動、寄付についての実証研究を行っている。

伊藤 友則 特任教授 (非常勤)

経営学修士

担当	M&A
科目	
著書	『クロスボーダーM&Aと経営』『一橋ビジネスレビュー』第60巻4号、28-44頁、2013。
論文	『日本企業のクロスボーダーM&A—日本たばこ産業の事例に見る10の成功要因』『一橋ビジネスレビュー』第60巻1号、92-106頁、2012。
	(1) 日本企業の M&A の成功要因 (2) 日本における資本コストと資本構成 (3) CSV 経営と資本市場

植村 信保 特任教授 (非常勤)

博士 (学術)

担当	経営管理特殊講義Ⅱ：リスクと保険
科目	
著書	『経営なき破綻—平成生保危機の真実—』日本経済新聞出版社、2008年。
論文	『利用者と提供者の視点で学ぶ保険の教科書』中央経済社、2021年。
	格付アナリストや行政官としての実務経験を踏まえ、主として保険会社の経営管理・リスク管理のあり方、保険会社向け健全性規制のあり方を研究。

ウ ス ビ サ コ

Oussouby SACKO 特任教授 (非常勤)

博士 (工学)

担当	異文化コミュニケーション
科目	
著書	『現代アフリカ文化の今—15の視点から、その現在地を探る—』(編著)青幻舎、2020年。
論文	The Involvement of Local Communities in the Conservation Process of Earthen Architecture in the Sahel-Sahara Region: The Case of Djenné, Mali. <i>Built Heritage</i> , 5(1), 2021.
	「居住空間」「京都の町家再生」「コミュニティ再生」「西アフリカの世界文化遺産(都市と建築)の保存・改修」など、社会と建築空間の関係性を様々な角度から調査研究を進めている。

鈴木 寛之 特任准教授 (非常勤)

博士 (会計・金融)

担当	アカウンティング
科目	
著書	Amoeba Management and Organizational Ambidexterity: Similarities, Differences, and Implications for Organizational Fit and Success. <i>International Journal of Productivity and Performance Management</i> , 69(2), 405-427, 2019. (共著)
論文	「京セラ・アメーバ経営と経営環境の変化—責任会計論と管理者行動の観点から—」アメーバ経営学術研究会編『アメーバ経営の進化—理論と実践』所収、中央経済社、211-232頁、2017年。
	管理会計に関する日本企業の実務を研究対象とし、インタビュー調査などの定性的手法を用いて、特に会計情報と人間行動や文化社会との関係性に注目して研究。

中山 純一郎 特任教授 (非常勤)

工学修士

担当	技術管理
科目	
著書	『プラスマアドレス液晶ディスプレイ』[OplusE] 第20巻7号、817-822頁、1998。(共著)
論文	Direct Overwriting Using Magneto-optical Trilayer Medium and One Magnet. <i>Japanese Journal of Applied Physics</i> , 32(11S), 5439, 1993. (共著)
	現在は、磁気回路設計技術、電気回路 (SiC パワーデバイスを含む) およびモータ制御技術などのモータ関連技術、電磁銅板およびマグネットなどの材料技術、NVH 技術、音響解析技術の研究管理。

灘原 壮一 特任教授 (非常勤)

理学博士

担当	技術開発
科目	
著書	『酸化・拡散プロセスのクリーン化』版部毅編著『シリコンウェーハ表面のクリーン化技術』所収、リアライズ社、2000年。
論文	Effects of BCl3 Addition to Cl2 Gas on Etching Characteristics of GaN at High Temperature. <i>Journal of Vacuum Science and Technology B, Nanotechnology and Microelectronics: Materials, Processing, Measurement, and Phenomena</i> , 37(2), 021209. (共著)
	半導体産業をベースとして、技術開発をビジネスとして成功に導くためのプロセス、組織、文化、外部連携などイノベーションマネジメントについて取り組む。

西口 敏宏 特任教授 (非常勤)

社会学博士

担当	経営管理特殊講義Ⅰ：ものづくり経営学
科目	
著書	『防衛調達論』(共著)中央経済社、2022年。
論文	『コミュニティ・キャピタル—中国・温州企業家ネットワークの繁栄と限界—』(共著)有斐閣、2016年。
	経営環境の激変する中、プレーヤー数は激増し、変転する。他方、一足先すら読めない状況が続く「不可知への備え」が要請される。こうした今日の課題にいかに対処すべきか近年のケースをもとに探求する。

バリッサ ハギリアン

Parissa HAGHIRIAN 特任教授 (非常勤)

博士 (経営学)

担当	マーケティング
科目	
著書	『Doing Good Business in China: Case Studies in International Business Ethics. World Scientific, 2021. (共著)』
論文	Japan's Employment System and Human Resource Management – Coping with Increasing Adjustment Pressures. <i>Contemporary Japan</i> , 34(1), 3-12, 2022.
	Japanese Management, International Management and Marketing, Cross-cultural Management and Communication.

藤本 隆宏 特任教授 (非常勤)

経営学博士

担当	経営管理特殊講義Ⅰ：ものづくり経営学
科目	
著書	『製品開発力—自動車産業の組織能力と競争力の研究(増補版)』(共著)ダイヤモンド社、2009年。
論文	『生産マネジメント入門Ⅰ(生産システム編)』日本経済新聞社、2001年。
	『生産マネジメント入門Ⅱ(生産資源・技術管理編)』日本経済新聞社、2001年。
	生産・開発管理 (Production and Development Management) を「顧客へ向かう付加価値 (設計情報) の流れを作るものづくり経営学」と規定し、その理論的・実証的分析を行う。理論的には、産業システムの進化経済学の分析枠組を探究している。

前田 正宏 特任教授 (非常勤)

修士 (租税学)

担当	国際課税
科目	
著書	『海外販売チャネルを子会社に譲渡した場合の取り扱い』(株)マーススタックスコンサルティングHP、2002年。
論文	『米国の飛行機事故により相続人が取得した損害賠償金及び搭乗者保険の課税関係』『国際税制研究』第22号、2009年。
	現在は、会計上実務で生じた国際税務の問題を実務家として処理することに努めている。国際課税や組織再編に関する税制改正が、米国税法に影響されながら進んで行くことを楽しみにしている。日本国内における製造業が衰退しているにもかかわらず、全世界所得を製造地と販売地の2拠地で分配する方式で、日本の課税権限を守れるのか、多岐に心配。

御立 尚資 特任教授 (非常勤)

経営学修士

担当	リーダーシップ
科目	
著書	『戦略「脳」を鍛える』東洋経済新報社、2003年。
論文	『「ミライの兆し」の見つけ方』日本経済新聞社、2019年。
	工業化社会とデジタル社会、二つのパラダイムが併存する時代、その特性と変化のドライバーを構造化するとともに、その時代環境に即したリーダーシップのあり方について研究。

守屋 貴司 特任教授 (非常勤)

博士 (社会学)

担当	人的資源管理
科目	
著書	『人材危機時代の日本の「グローバル」人材の育成とタレントマネジメント—見捨てられる「日本・日本企業」の処方箋—』晃洋書房、2020年。
論文	『日本の中小企業における外国人材による「働き方改革」と現状と改善策』『商工金融』2019年04月号、18-33頁。
	外国人材活用によるダイバーシティマネジメントの展開や京都企業経営を研究。

山田 善隆 特任教授 (非常勤)

会計学修士

担当	国際財務報告
科目	
著書	『IFRS会計学基本テキスト(第7版)』(共著)中央経済社、2022年。
論文	『内部統制監査と財務諸表監査の関係性からの内部統制報告制度の将来像に関する一考察』『現代監査』第25号、104-112頁、2015年。
	下記領域について実務家の視点から研究。 (1) 会計基準の国際比較、会計基準の実務適用及び財務報告全般 (2) 財務報告以外の企業報告 (3) 財務諸表監査、内部統制監査、その他保証業務及び不正調査業務

山本 名美 特任教授 (非常勤)

経営学修士

担当	経営管理特殊講義Ⅲ：リーダーシップとコミュニケーション
科目	
著書	テレビ東京報道局編著『スミスの本棚—新しい自分が見つかる読書—』日経BP社、2013年。(共著)
論文	テレビ東京報道局編『ガイアの夜明け 闘う100人』日本経済新聞社、2005年。(共著)
	SNS 時代のコミュニケーション論、メディア論／ビジネス・ストーリーテリング／ステークホルダー・リレーションズ

経済学研究科

Graduate School of Economics

経済学専攻 修士課程

京都太秦キャンパス

CONCEPT

研究科コンセプト

幅広い分析能力と問題解決能力を備えた 高度な職能を誇る人材の育成をめざします。

成熟化した日本の経済社会は、少子高齢化やグローバル化、さらにはICT化など先進国に共通する課題に加え、財政赤字の急増や経済格差の拡大など、今後その影響が深刻化するものと予想される諸問題に直面しています。本研究科は、現代経済社会の特性を踏まえつつ、国民生活の環境変化に伴う諸問題を分析し、広い視野に立って深い学識を修得し、高度な専門性が求められる職業を担うことのできる人材の育成をめざしています。講義科目は、経済学研究のための「理論分野」と「政策分野」に加え、税理士資格取得に役立つ「経営学・法学分野」から構成され、それぞれの研究テーマに応じて体系的に学びを深化させていきます。また所定の科目群の単位を修得することにより、ファイナンシャルプランナーの国際資格「CFP®」の受験資格が取得できる『CFP®認定教育プログラム』も用意されています。



めざすキャリア

経済社会活性化の担い手

- ☐ 民間企業
- ☐ 公務員

金融経済の担い手

- ☐ 税理士
- ☐ 金融アナリスト

CURRICULUM

カリキュラム

経済学の標準的な教育プログラムに基づきつつ、政策形成能力の養成に必要な専門知識の修得を重視。大きくは講義科目と演習科目に分かれ、講義科目は経済学的な思考方法と分析方法を重視した「理論分野」と、現実の政策課題を多角

的・総合的に分析し考察する「政策分野」で構成。両分野に共通する科目群としての統計処理やコンピュータ処理に関する領域も充実しています。

理論分野 ☐ 経済学史 ☐ 近代経済学史 ☐ ミクロ経済学 ☐ ミクロ経済分析 ☐ マクロ経済学 ☐ マクロ経済分析 ☐ 計量経済学 ☐ 経済統計学 ☐ 時系列データ分析 ☐ 時系列モデル ☐ 情報科学 ☐ 金融経済論 ☐ 国際経済学 ☐ 国際金融論 ☐ 財政学 ☐ 公共経済学 ☐ 経済社会学 ☐ 社会経済史 ☐ 西洋経済史 ☐ パーソナルファイナンス ☐ リスクの経済学 ☐ リスク・マネジメント ☐ 不動産運用設計	【演習科目】 ☐ 理論経済学演習 ☐ 経済学史演習 ☐ 計量経済学演習 ☐ 時系列解析演習 ☐ 金融経済論演習 ☐ 社会経済史演習	政策分野 ☐ 経済政策論 ☐ 比較経済政策論 ☐ 公共政策論 ☐ 社会政策論 ☐ 産業政策論 ☐ 金融政策論 ☐ 財政政策論 ☐ 地域経済論 ☐ 交通経済論 ☐ 租税論 ☐ 租税制度論 ☐ 税務会計実務 ☐ 新会計基準と法人税 ☐ 技術移転論 ☐ 技術戦略論	【演習科目】 ☐ 経済政策論演習 ☐ 公共経済学演習 ☐ 地域経済論演習 ☐ 地域交通論演習 ☐ 租税論演習 ☐ 技術移転論演習 ☐ 社会政策論演習 ☐ 租税法演習	経営学・法学分野 ☐ 経営戦略論研究 ☐ 中小企業経営論研究 ☐ 会計学研究 ☐ 監査論研究 ☐ 管理会計論研究 ☐ 財務諸表論研究 ☐ 租税法総論 ☐ 租税手続法 ☐ 租税争訟法 ☐ 所得税法 ☐ 法人税法 ☐ 民法総則 ☐ 行政用法 ☐ 会社法 ☐ 経済法 ☐ 法情報処理
---	--	--	---	---

年度により開講科目が変更されることがあります。

ADMISSION POLICY

求める人物像

- 本研究科では、経済学部卒業者及びこれらと同等の学力を有する者で、かつ以下の条件を満たす者を受け入れる。
1. 高度な専門性を身につけて、社会の様々な分野で活躍する職業人を目指す者。
 2. 経済学に立脚しつつ経営学や法学等の学問領域横断的な問題に対する解答を見出したい者。

TEACHING STAFF

教員紹介

大島 博行 教授 修士(都市ビジネス)

担当科目	経営戦略論研究
著書論文	『“日本発”MBA 戦略&マネジメント[実践編]』(共著:中央経済社) 『CKO-ナレッジを活かす経営』(共著:生産性出版) ほか多数

ケーススタディを通じて、経営戦略に関する各種フレームワークを試し、その有用性と限界について各自の視点で検証する。実際の企業の現場でフレームワークを使いこなし、経営戦略を策定できる力を育成する。

久下 沼 仁 教授 経済学修士

担当科目	公共経済学 公共政策論 公共経済学演習
著書論文	『ポスト福祉国家の総合政策』(共著:ミネルヴァ書房) 『キャリアと労働の経済学』(共著:日本評論社) ほか多数

政府による市場経済への介入がもたらす経済効果について、政府内部での政策決定に関する政治過程にも焦点を当て分析する。また現代日本の具体的な政策課題への政府の対応の在り方を検討する。

藤川 義雄 教授 修士(経営学)

担当科目	財務諸表論研究
著書論文	『現代会計の思潮』(共著:同文館) 『国際会計の基本問題』(共著:同文館) ほか多数

会計は現在、急激な変化の中にある。国際会計基準との差異解消という大きな課題を抱え、その論点はバラエティに富んでいる。問題の本質がどこにあるのか、学生とともに探究していきたい。

土屋 貴裕 准教授 修士(経済学) 博士(安全保障学)

担当科目	産業政策論 地域経済論 財政学 財政政策論 地域経済論演習
著書論文	『米中の経済安全保障戦略:新興技術をめぐる新たな競争』(共著:芙蓉書房出版) 『現代中国の軍事制度:国防費・軍事費をめぐる党・政・軍関係』(単著:勁草書房) ほか多数

日本および東アジアの地域経済について、フィールドワークを実施したり、統計データや資料を利用して理解を深めていく。修士論文の執筆を通じて、地域が抱える課題を分析し、解決策としての経済産業政策を検討する。

浦川 源二郎 講師 博士(法学)

担当科目	行政作用法
著書論文	『不法移民と時間の関係の法的検討』(広島大学リポジトリ) 『所有論から考察する非正規滞在者の地位』(広島法学44巻4号) ほか

行政法全体と関わる一般法理や、行政による諸種の対外的活動と関わる法的問題について学ぶ。

大野 彰 教授 経済学修士

担当科目	社会経済史 西洋経済史 社会経済史演習
著書論文	『外国経営史の基礎知識』(共著:斐閣) ほか多数

資料を集め、これに様々な解釈を加えることによって、歴史的な角度から経済について考察することが、本演習の目標である。受講生が興味をもって経済史を学べるようにしたい。

澤田 吉孝 教授 博士(商学)

担当科目	金融経済論 金融政策論 金融経済論演習
著書論文	"The Effectiveness of Unconventional Monetary Policy in USA," Proc. of the 45th ISIC International Symposium on Stochastic Systems Theory and Its Applications (SSS' 13), 2013. ほか多数

無知からくる「誤った政策」は、善意であっても災禍をもたらす。このことを念頭に最新の金融理論を用いて日本の金融政策を批判的に分析する。併せて金融を読み解く力の育成を目指す。

村井 淳一 教授 修士(法学) 税理士

担当科目	租税法演習 租税法総論 租税手続法 租税争訟法
著書論文	『税務訴訟と要件事実論』(共著:清文社) 『中小企業の会計に関する指針ガイドブック』(共著:清文社) ほか多数

税法の基礎理論を前提としつつ、「税目」ごとの知識にとどまらず横断的な理解に主眼を置いて、現実の経済活動に税法を的確に当てはめるための理論的な思考力を身につけられるよう、院生の皆さんとともに議論し、研究していきたいと思う。

付 馨 准教授 博士(経営学)

担当科目	会計学研究
著書論文	『財務会計のイノベーション—公正価値・無形資産・会計の国際化による知の創造—』(共著:中央経済社)、『統合報告革命』(共著:税務経理協会) ほか多数

社会経済の発展に伴い、企業の在り方が変化し、企業会計もそれに応じて変わりつつある。基礎文献を渉猟しつつ、学術と実務の最新動向を掴み、会計学の諸問題を解決する力を育む。

段 杰 一 講師 博士(経済学)

担当科目	マクロ経済学 マクロ経済分析
著書論文	Does cheap talk promote coordination under asymmetric information? An experimental study on global games" <i>Journal of Behavioral and Experimental Economics</i> , 2020, Volume 86 (共著) ほか多数

情報伝達方式と経済主体の経済行動との関連性についての研究及び、マクロ経済理論の再考に向けた実験・行動経済学分析を展開している。

梶田 晋吾 特任教授 工学修士 博士(経営管理)

担当科目	技術移転論 技術戦略論 技術移転論演習
著書論文	『明日のエネルギーと環境その続編』(共著:日本工業新聞社) 『どのように公共経営に企業経営管理手法を導入するか』(嘉悦大64巻1号) ほか多数

産学共同研究や官民パートナーシップといった複数主体の連携による技術移転と経営戦略・展開による様々な社会的課題の解決や新たな価値創造の在り方を分析し、実践的なアプローチを研究する。

平田 謙輔 教授 修士(経済学)

担当科目	経済社会学 社会政策論 社会政策論演習
著書論文	『社会保障の光と影』(高菅出版) 『W.レブケの経済・社会政策構想』 ほか多数

社会保障の意義と課題について理解を深めるとともに、福祉国家が抱える問題とその転換の方向について考察する。

村田 淑子 教授 修士(アメリカ研究)

担当科目	経済法 法情報処理
著書論文	『英国競争法の最近の動向—競争・市場庁の創設を中心に』(『競争法の理論と課題』所収)『欧州と日本における証券取引所グループの合併と競争法』(同志社法学71巻1号) ほか多数

「経済法」では、市場経済における「公正かつ自由な競争」を促進する独占禁止法について、主にカルテル規制を中心に検討する。「法情報処理」では、法学部出身者以外による法学の修士論文作成に必要なスキルの習得を目指す。

色川 豪一 講師 修士(法学)

担当科目	民法総則
著書論文	著書(共著):『嫌いなならない法学入門』(信山社)

経済社会のインフラである私法の、そのまた基本法である民法について、具体的な事例や判例を交えながら、基本的・標準的な知識を習得することができるようにします。

難波 敏彦 講師 博士(経済学)

担当科目	ミクロ経済学 ミクロ経済分析
著書論文	The Intrinsic Value of Decision Rights and Reciprocity (Journal of Behavioral Economics and Finance 共著) The Weak Relationship Between Uncertainty and Incentives in Linear Contracts (RISS Discussion Paper Series 単著)

ミクロ経済学における理論分析手法(消費者の理論、生産者の理論、ゲーム理論)を基礎として、行動経済学・コンピュータシミュレーション・経済実験を取り入れることにより、現実社会で使える経済学について講義する。

経済学研究科プログラム

京都太秦キャンパス

Common Program for Attaining Certified Public Tax Accountancy (CPTA) Status

税理士養成コース

CONCEPT

研究科コンセプト

経済、法務、会計の各領域にわたる知識と実務能力を備えた専門的職業人を育成します。

税理士は、税務の専門家として企業が税務署に提出する申告書の作成を代行するだけでなく、決算書類の作成や会計帳簿の記帳代行などの会計業務、そして経営指導業務も担っています。さらに税理士は近年、民間企業の会計参与や地方公共団体の外部監査人としても認定され、より幅広い職域で活躍できるようになりました。したがって、こうした税理士に期待される職務遂行のためには、これまで以上に幅広い専門的な知識が不可欠であることはもちろん、公正で透明な税務行政に貢献できるような高い職業倫理意識を持つことが要請されています。本学大学院の税理士養成コースは、このような時代的要請に応え、税務・会計領域における専門的職業人の育成をめざしています。

めざすキャリア

中小企業における経営支援の担い手

☐ 税理士

民間企業・公務員における法務・会計の担い手

☐ 企業内税理士☐ 国税専門官

※ 学位取得による税理士試験の科目免除制度について

本学大学院を修了し、修士論文を国税庁・国税審議会に提出して審査に通れば税理士試験の一部科目の試験免除を受けることができます。

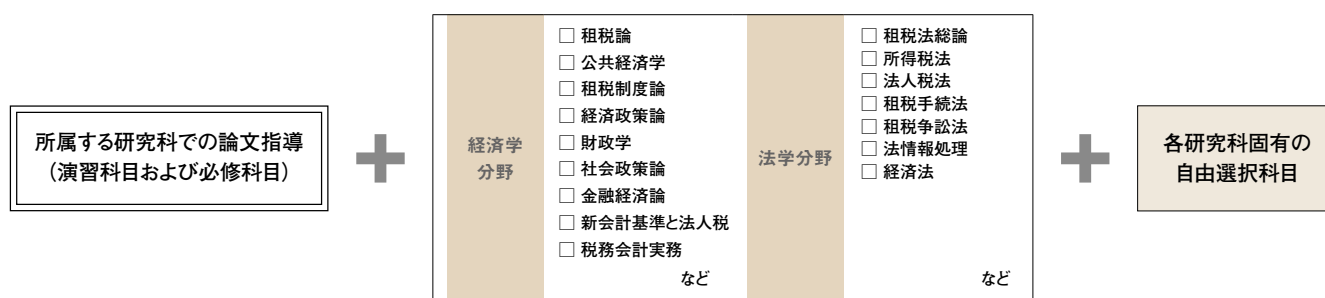
研究科	修士論文の内容	得られる学位	試験免除の内容
経済学研究科	税法に関する論文	修士(経済学)	税法2科目免除

CURRICULUM

カリキュラム

税理士養成コースは、経済学研究科のプログラムであり、大学院生は、希望する演習担当者に所属することになります。演習指導と必修科目は各研究科の規定に

従いますが、次の各分野の履修科目はすべて「所属研究科の修了に必要な単位」として認定されます。なお、担当者については各研究科のページをご参照ください。



年度により開講科目が変更されることがあります。

人間文化研究科

Graduate School of Human Culture

人間文化専攻 修士課程

京都太秦キャンパス

CONCEPT

研究科コンセプト

文化・社会・人間の心を複眼的に追究。
高度な専門職業人の養成をめざします。

人々の価値観が揺らぎ、人間関係を形成する社会システムも人間の心の中も、従来の価値体系では解決策を見いだせない現代。人間の生き方、社会システムの在り方、文化の機能を多角的に解明する学問の構築が求められています。人間文化研究科は、「文化研究」「社会情報」「心理学」の3つの教育研究領域を有機的に関連させ、高度な専門職業人の養成を追究。臨床心理学コースは、公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会の第1種指定大学院で、国家資格である「公認心理師」の受験資格も取得することができます。さらに、中学校教諭(社会)、高等学校教諭(地理歴史)の専修免許状が取得できます。



〈文化研究領域〉

「文化研究コース」では、日本とアジアを中心とした文化遺産と文化的伝統、人々の生活の中で作用している文化の機能の諸相と特質を、文化、地理、歴史、思想、言語、文学等の側面から探究する。

文化
Culture

社会
Society



〈社会情報領域〉

「社会情報コース」では、各種メディアにおいて情報技術が発達するとともに大きく変動しつつある現代社会と文化の動向を探り、そこに生じる新たな社会的諸問題を理論的・実践的に研究する。

〈心理学領域〉

家庭・学校・地域社会などにおける実際の課題を発見し解決する人材を育成する「心理学コース」と、心の健康に関わる援助者としての心構えと知識、そして技能を備えた専門家を育成する「臨床心理学コース」の2つがある。人間の心の機能とその形成過程を解明する。

人間の心
Mind

臨床心理士と公認心理師の受験資格を取得できる「臨床心理学コース」

対人援助や心理カウンセリングの分野で活躍するには、臨床心理士や公認心理師は欠かせない資格です。臨床心理学コースは、日本臨床心理士資格認定協会の第1種指定大学院。本コースを修了することによって、臨床心理士資格試験の受験資格を取得することができます。臨床心理士や公認心理師の資格があれば、医療・教育・福祉・司法・産業などの分野で幅広く仕事をすることができます。

めざすキャリア

中・高等学校教育の担い手

- ☐ 中学校教諭(専修免許状／社会)
- ☐ 高等学校教諭(専修免許状／地理歴史)

人々の精神的健康の担い手

- ☐ 臨床心理士
- ☐ 公認心理師

CURRICULUM

カリキュラム

日本・アジアの文化と歴史を中心に研究する「文化研究コース」、現代の社会問題や情報メディアを研究する「社会情報コース」、認知・学習・発達・社会など心理学の各分野を研究する「心理学コース」、臨床心理士や公認心理師の受

験資格の取得をめざす「臨床心理学コース」(日本臨床心理士資格認定協会の第1種指定大学院)の4コースを設定。多様な領域の研究者が本科を構成し、複眼的な研究ができる環境を作っています。

文化研究 コース	☐ 人間文化基礎特論 ☐ 日本歴史文化特論 ☐ 日本語文化特論 ☐ 日本古典文学特論 ☐ 文化人類学特論 ☐ 英語言語学特論	【演習科目】 ☐ 日本歴史文化研究演習 ☐ 日本語文化研究演習 ☐ 日本古典文学研究演習 ☐ 文化人類学研究演習
	その他選択科目多数	

社会情報 コース	☐ 人間文化基礎特論 ☐ 政治社会学特論 ☐ ジェンダー社会学特論 ☐ 理論社会学特論 ☐ コミュニケーション社会学特論 ☐ マルチメディア特論 ☐ 広告広報特論 ☐ 環境社会特論	【演習科目】 ☐ 社会学研究演習 ☐ コミュニケーション社会学研究演習 ☐ 広告広報研究演習
	その他選択科目多数	

心理学 コース	☐ 人間文化基礎特論 ☐ 心理学研究法特論 ☐ 認知心理学特論 ☐ 発達心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開) ☐ 社会心理学特論 ☐ 集団心理学特論 ☐ 障害児心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開) ☐ 実験心理学特論 ☐ 計量心理学特論 ☐ 産業・労働分野に関する理論と支援の展開	【演習科目】 ☐ 心理学研究演習
	その他選択科目多数	

臨床 心理学 コース	☐ 人間文化基礎特論 ☐ 臨床心理学特論 ☐ 臨床心理面接特論 (心理支援に関する理論と実践) ☐ 臨床心理基礎実習 ☐ 臨床心理実習 (心理実践実習) ☐ 心理学研究法特論 ☐ 認知心理学特論 ☐ 発達心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開) ☐ 社会心理学特論 ☐ 障害児心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開) ☐ 精神医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開) ☐ 心理療法特論 ☐ 臨床心理関連行政論 ☐ 心身医学特論 ☐ 臨床心理学研究法特論	☐ コミュニティ・アプローチ特論 (家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践) ☐ 司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開 ☐ 産業・労働分野に関する理論と支援の展開 ☐ 心の健康教育に関する理論と実践
	【演習科目】 ☐ 臨床心理査定演習 (心理的アセスメントに関する理論と実践) ☐ 臨床心理学研究演習	その他選択科目多数

年度により開講科目が変更されることがあります。

ADMISSION POLICY

求める人物像

本研究科は、本研究科修士課程の履修に必要なとされる基礎的な能力を有し、なおかつ次のような資質を備えた人を求める。

文化研究コースでは、日本の文化遺産と文化的伝統、人々の生活の中で作用している文化の態様とその特質を地理、思想、歴史、言語、文学等の側面から教育研究したい者。

社会情報コースでは、各種メディアによる情報伝達技術に関心を持ち、現代の社会と文化に関する幅広い興味を有し、そこに生じる社会的諸問題の解決に寄与する能力を身につけたいと考えている者。

心理学コースでは、人間として基本的な心理と行動を対象として教育研究したい者。

臨床心理学コースでは、人間の心に関する深い理解を基礎にして、臨床心理学を専門的に修得し、心の健康に関わる援助者としての心構えと知識・技能を兼ね備えた心の専門家を目指す者。

心理学コース

有馬 淑子 教授

博士(人間科学)

担当	心理学研究演習 社会心理学特論 集団心理学特論
科目	産業・労働分野に関する理論と支援の展開

著書 『集団と集合知の心理学』(ナカニシヤ出版)
論文 『極端化する社会』(北大路書房) ほか多数

社会心理学の文献を読み、各自の問題意識に応じたテーマを設定して、修士論文を作成する。データ解析、テキスト分析などの実習を通じて、社会に应用可能な知識と技術を習得できるよう指導する。

神原 歩 准教授

博士(心理学)

担当	認知心理学特論
科目	

著書 『読んでわかる社会心理学(ライブラリ読んでわかる心理学10)』(共著、サイエンス社)「態度が相反する他者への過度なバイアス認知を 錯視経験が緩和する効果」(「心理学研究」) ほか多数

行廣 隆次 教授

教育学修士

担当	心理学研究演習 心理学研究法特論 計量心理学特論
科目	実験心理学特論

著書 『コネクショニスト・モデルと心理学—脳のシミュレーションによる心の理解—』(北大路書房) 「ワーキングメモリ内での処理と貯蔵のトレードオフ—数の処理と空間処理を用いた検討—」(「人間文化研究」) ほか多数

認知心理学や計量心理学分野から研究テーマを選び、先行研究を踏まえて実証的な研究を行い、修士論文を作成する。

池田 慎之介 准教授

修士(教育学)

担当	人間文化基礎特論 発達心理学特論
科目	

著書 論文 『幼児期から児童期の子どもにおける発話からの感情判断の発達』(心理学研究)、『感情の経験と知覚における言語の役割—理論的整理と発達の検討—』(心理学評論)ほか

臨床心理学コース

田中 史子 教授

博士(教育学)
臨床心理士
公認心理師

担当	臨床心理実習 臨床心理学研究演習
科目	臨床心理基礎実習 心理実践実習 臨床心理学特論

著書 『物語(tale)の臨床心理学』(創元社)
論文 『矛盾、曖昧さ、荒唐無稽さを含んだ物語について—』
『Lévy-Bruhlの「原始神話」と臨床心理学的視点—』など

修士論文作成においては、大学院生自身の関心にしたがい、心理臨床の実践につながる研究テーマを選択し、そのテーマの追求を通して心理臨床家としての姿勢を学べるよう指導している。

山 愛美 教授

博士(教育学)
臨床心理士

担当	臨床心理学研究演習 臨床心理面接特論
科目	臨床心理実習

著書 論文 『言葉の深みへ』(誠信書房)、『黒の創造 香月泰男』(遠見書房)、『村上春樹、方法としての小説』(新曜社)他、日本人の精神性や文化に関する英文の論文も多数。

国内外の学術論文や著書などの文献を講読し、研究テーマを決定。各自の研究内容に即して、研究の目的、研究領域における位置付けを明らかにし、幅を広げる。

飯野 秀子 准教授

教育学修士
臨床心理士
公認心理師

担当	臨床心理基礎実習 臨床心理実習 臨床心理査定演習
科目	

著書 論文 『ロールシャッパ法における、査定者の臨床イメージ体験のあり方と機能』 『絵画表現の歴史から見たロールシャッパ法の陰影反応』 ほか多数

伊原 千晶 准教授

教育学修士
臨床心理士
公認心理師

担当	臨床心理基礎実習 臨床心理学特論
科目	学校臨床心理学特論

著書 論文 『生命と魂—心身論の観点から—』
『臨床心理学とコミュニケーション』
『心理臨床の法と倫理』 ほか多数

上松 幸一 准教授

教育学修士
臨床心理士
公認心理師

担当	臨床心理査定演習 臨床心理実習 臨床心理関係行政論
科目	

著書 論文 『教育相談 —よくわかる!教職エクササイズ—』(共著・ミネルヴァ書房) 『不登校児へのシステム論的視点を用いた介入—父子、母子合同箱庭を用いて—』(家族心理学研究)

心理テストの演習や事例検討などを用いて、心理臨床の現場で即戦力として活躍できるよう、指導を行う。
授業では、「自分で考える力」と「助け合う力」が特に重要視される。

小山 智朗 准教授

博士(教育学)
臨床心理士
公認心理師

担当	臨床心理面接特論 臨床心理実習 心理実践実習
科目	

著書 論文 共著:主体生成プロセスをまなぐ視点呈示の試み(創元社)
共著:発達障害をかかえる子どもの母親面接「発達障害」と心理臨床(創元社)

菱田 一仁 講師

博士(教育学)

担当	臨床心理学基礎実習 臨床心理実習
科目	臨床心理学研究法特論

著書 論文 『人形遊びの心理臨床』(創元社)、『「造り物」の観点から見た箱庭と箱庭療法』、『「遊び」の観点から見る箱庭と箱庭療法』、『人形の象徴性と心理臨床における人形のあり方について』など

社会情報コース

岡本 裕介 教授

学術修士

担当	コミュニケーション社会学研究演習
科目	コミュニケーション社会学特論

著書 論文 『コミュニケーション社会学入門』(共著:世界思想社)
『G.H.ミードの行動主義と「I」の他者性』ほか多数

コミュニケーションは社会の不可欠の構成要素である。さまざまな社会的現象をコミュニケーションという視点からとらえ、社会について考える。

小川 賢治 教授

文学修士

担当	社会学研究演習 政治社会学特論
科目	

著書 論文 『勲章の社会学』(晃洋書房)
『基本的人権と日本社会のモダンティ』 ほか多数

社会学の古典的な文献を研究することによって社会学的な思考法を再確認し、並行して日本社会における民主主義の問題についても考える。

君塚 洋一 教授

文学修士

担当	広告広報研究演習 広告広報特論
科目	

著書 論文 『選曲の社会史—「洋楽かぶれ」の系譜』(日本評論社)
『文化としてのテレビ・コマーシャル』(共著:世界思想社)
『イメージ編集』(共著:武蔵野美術大学出版局) ほか多数

メディア論、広告広報、ブランド、地域づくり、表現文化などをテーマとする修士論文の執筆、作品の研究・制作を行う。文献研究やサーベイとあわせ、メディアや地域の現場とのネットワークを活かした指導を行う。

佐藤 嘉倫 教授

博士(文学)

担当
科目 人間文化基礎特論 社会学研究演習

著書 『ソーシャル・キャピタルと社会』(ミネルヴァ書房)
論文 『社会理論の再興』(ミネルヴァ書房)など

参加者一人一人の研究関心に沿った指導をして、優れた修士論文執筆につなげる。

内藤 登世一 教授

Ph.D(環境・資源経済学)

担当
科目 環境社会特論

著書 *Mangrove Ecosystem in Asia: Current Status, Challenges and Management* Springer(共著)
論文 "Assessment of Japanese Recycling Policies for Home Electric Appliance: Cost-effectiveness Analysis and Socioeconomic and Technological Implications." *Environmental Development* ほか多数

関口 久雄 准教授

修士(社会学)
修士(学際情報学)

担当
科目 マルチメディア特論 人間文化基礎特論

著書 『インターフェイス～コンピューターと対峙する時』(ひつじ書房)
論文 『メディアのプリコラージュ』(冬弓舎) ほか多数

文化研究コース

鍛冶 宏介 教授

博士(文学)

担当
科目 日本歴史文化特論 日本歴史文化研究演習

著書 『海士町村上家文書調査報告書』(海士町)
論文 『読書と読者』(共著、平凡社) ほか多数

歴史学の基本である、研究史との格闘、史料の博覧・読解を徹底的に行うことで、新しい歴史像を描き出すための鍛錬を行っている。研究者として、ともに切磋琢磨しましょう。

佐藤 文子 教授

博士(文学)

担当
科目 日本歴史文化研究演習 日本歴史文化特論

著書 『日本古代の政治と仏教—国家仏教論を超えて』吉川弘文館
論文 2018年、『仏教がつなぐアジア』(共編)勉誠出版、2014年

歴史学は、自分とは異なる時空を生きる人々の行動原理を知る他者理解のサイエンスである。過去の人々の活動痕跡を博覧し、昔の文法で書かれた書物や墨で書かれた文字を解読し、専門分析を進めることで、その先にある人々の実像を論じていく。

手塚 恵子 教授

文学修士

担当
科目 文化人類学研究演習 文化人類学特論

著書 『中国広西壮族歌垣調査記録』(大修館書店)
論文 『京の筏 コモンズとしての保津川』(共著・ナカニシヤ出版) ほか多数

文化人類学は文化をフィールドワークし、それを分析する方法論を積み上げてきた。これらの基本的な文献を学び、その方法論を生かしてフィールドワークを行う。そこで得たデータを分析することを通じて、民族誌もしくは論文を書き上げる。

丸田 博之 教授

博士(文学)

担当
科目 日本語文化研究演習 日本語文化特論

著書 『近世における「方言書」の見方について』(『近代語研究21』)
論文 『日葡辞書の編者とその周辺』(『国語国文』) ほか多数

先行研究を精査しながら、各人がいかなる事象を研究対象とするのかを十分検討した上でテーマを設定し、日本語学の問題点を明らかにすることに全力を注ぐことができるよう指導を行う。

山本 淳子 教授

博士(人間・環境学)

担当
科目 日本古典文学研究演習 日本古典文学特論

著書 『紫式部集論』(和泉書院)『紫式部日記と王朝貴族社会』(同)『源氏物語の時代』(朝日新聞出版)『枕草子のたぐらみ』(同) ほか多数

平安時代の作品を選び、本文批判・考証・表現などの基礎作業を重ねたうえで、自分なりの読みの可能性に取り組む。

渡部 圭一 准教授

博士(文学)

担当
科目 民俗学特論

著書 『オビシヤ文書の世界—関東の村の祭りと記録』(共編、岩田書院)、『中世惣村の現在—近江国今堀郷故地の現地調査』(共編、琵琶湖博物館)

宮本 陽佳 講師

博士(文学)

担当
科目 日本古典文学特論

著書 『澤田一齋の「水滸傳」講義をめぐって』(『日本中国学会報』第70集)、『「和刻三言」採録篇に見える小説の評価について：施訓者の序を手掛かりに』(『中国文学報』第93冊)



2023年度 大学院 入学試験ガイド

■募集研究科及び入学定員

研究科	専攻・コース		入学定員	備 考
経 済 学 研 究 科	経済学専攻・税理士養成コース		5名	※選考方法についての詳細は、 入学試験要項を参照してください。
経 営 学 研 究 科	経営管理専攻（ビジネススクール）		20名	
人 間 文 化 研 究 科	人 間 文 化 専 攻	文 化 研 究 コ ー ス	10名 （うち臨床心理学コースは 6名）	
		社 会 情 報 コ ー ス		
		心 理 学 コ ー ス		
		臨 床 心 理 学 コ ー ス		
バ イ オ 環 境 研 究 科	博 士 課 程 前 期	バ イ オ 環 境 専 攻	20名	
	博 士 課 程 後 期		3名	
工 学 研 究 科	博 士 課 程 前 期	機 械 電 気 シ ス テ ム	15名	
	博 士 課 程 後 期	工 学 専 攻	2名	

■出願期間・選考日・合格発表日

	インターネット出願期間	選考日	合格発表日
A 日 程	2022年9月14日(水)～9月26日(月) (出願書類の郵送は9月28日(水)消印有効)	2022年10月8日(土)	2022年10月25日(火)
B 日 程	2023年1月5日(木)～1月16日(月) (出願書類の郵送は1月18日(水)消印有効)	2023年1月28日(土)	2023年2月15日(水)

*経済学研究科、人間文化研究科の学内推薦選考はインターネット出願を実施しないため、受付期間の最終日消印有効。

■2023年度 学費等 納付金額(予定)

2023年度の入学者に適用する学費等の額は、2022年7月頃に決定する予定です。以下は、2022年度の入学者に適用する学費等を参考として掲載しています。

経営学研究科・経済学研究科・バイオ環境研究科

研究科別 費 目		経営学研究科		経済学研究科		バイオ環境研究科	
		入学手続時納付 (春学期分)	10月納付 (秋学期分)	入学手続時納付 (春学期分)	10月納付 (秋学期分)	入学手続時納付 (春学期分)	10月納付 (秋学期分)
入 学 金		200,000円	—	200,000円	—	200,000円	—
学 費	授 業 料	750,000円	750,000円	272,500円	272,500円	315,000円	315,000円
	施設設備費	—	—	96,000円	96,000円	75,000円	75,000円
	実験実習費	—	—	—	—	85,000円	85,000円
小 計		950,000円	750,000円	568,500円	368,500円	675,000円	475,000円
合 計		950,000円	750,000円	570,500円	368,500円	675,000円	475,000円

人間文化研究科

コース別 費 目		文化研究コース・社会情報コース		心理学コース		臨床心理学コース	
		入学手続時納付 (春学期分)	10月納付 (秋学期分)	入学手続時納付 (春学期分)	10月納付 (秋学期分)	入学手続時納付 (春学期分)	10月納付 (秋学期分)
入 学 金		200,000円	—	200,000円	—	200,000円	—
学 費	授 業 料	272,500円	272,500円	272,500円	272,500円	272,500円	272,500円
	施設設備費	96,000円	96,000円	96,000円	96,000円	96,000円	96,000円
	実験実習費	—	—	10,000円	10,000円	40,000円	40,000円
小 計		568,500円	368,500円	578,500円	378,500円	608,500円	408,500円
委託徴収金	学 会 費	3,000円	—	3,000円	—	3,000円	—
合 計		571,500円	368,500円	581,500円	378,500円	611,500円	408,500円

工学研究科

研究科別 費 目		工学研究科	
		入学手続時納付 (春学期分)	10月納付 (秋学期分)
入 学 金		200,000円	—
学 費	授 業 料	325,000円	325,000円
	施設設備費	75,000円	75,000円
	実験実習費	100,000円	100,000円
小 計		700,000円	500,000円
合 計		700,000円	500,000円

*最終学歴が京都学園大学・京都先端科学大学(大学院含む)の方は、入学金100,000円(全研究科共通)、施設設備費半期分64,500円(バイオ環境研究科・工学研究科除く)となります。

奨学金

本学では、多彩な奨学金制度を用意しています。全研究科共通のスーパートップスカラシップなど、意欲あふれる研究者を応援します。

名 称	内 容	金 額 等
スーパートップスカラシップ (全研究科)	博士課程前期および博士課程後期の希望者のうち、特別に優秀な方を対象とします。 ※各研究科若干名。	1. 入学金全額免除 2. 学費（授業料、施設設備費、実験実習費）全額免除 ※2年間または3年間（継続には学期ごとの成績審査があります） 3. 修学支援金 年間120万円 ※2年間または3年間（継続には学期ごとの成績審査があります）
大学院給付奨学金 (工学研究科除く)	研究及び学業等において本学大学院生の模範となる方を対象とします。 ※各研究科若干名。	入学金・学費（授業料、施設設備費、実験実習費） 全額又は50%
成績優秀者特別奨学金 (工学研究科)	特別に優秀な博士課程前期希望者を対象とします。 ※第1種2名、第2種5名、第3種5名	第1種：入学金・学費10割 第2種：入学金・学費5割 第3種：入学金・学費3割 ※2年間（継続には学期ごとの成績審査があります） ※学費とは授業料、施設設備費、実験実習費を指します。
	特別に優秀な博士課程後期希望者を対象とします。 ※最大2名	第1種：入学金・学費10割 ※3年間（継続には学期ごとの成績審査があります） ※学費とは授業料、施設設備費、実験実習費を指します。

※企業から学費の支給がある企業派遣の方は、奨学金対象外です。 ※最新の情報は本学HPをご覧ください。

大学院長期履修学生制度のお知らせ

長期履修学生制度とは、職業を有している等の事情により、標準修業年限では大学院の教育課程の履修が困難な者に限り、計画的に教育課程を履修し、修了する制度です。

1.適用研究科 全ての研究科に適用されます。

2.申請資格

- ①職業を有している者
 - ②育児、介護等の事情により、標準修業年限で修了することが困難であると学長が認めた者
 - ③その他やむを得ない事情（身体の障がい、疾病等）を有し、標準修業年限で修了することが困難であると学長が認めた者
- ※外国人留学生（在留資格「留学」を有する者）は申請できません。

3.履修期間

- ①修士課程・博士課程前期の長期履修計画期間は、標準修業年数2年を含み最大4年
- ②博士課程後期の長期履修計画期間は、標準修業年数3年を含み最大6年

4.申請手続

入学日の原則20日前までに次の書類をご提出ください。

- ①長期履修学生申請書
- ②在職証明書（職業を有する者）
- ③その他必要と認められる書類

5.授業料等の取扱

- ①履修計画期間（標準修業年数に長期履修期間年数を加えた期間）における授業料等の額は、標準修業年数（修士課程・博士課程前期2年、博士課程後期3年）分の授業料、施設設備費、実験実習費（以下「標準修業年数分学費総額」という。）を履修計画期間で除した額となります。
- ②履修計画期間に変更があった場合、標準修業年数分学費総額から、支払済み授業料等を差し引いた額を、残りの履修計画期間で除した額となります。
- ③その他研究科で定められた費用が必要となる場合があります。

◎この件に関するお問い合わせは 入学センター 075-406-9270まで

Access Guide

- 地下鉄東西線 太秦天神川駅より徒歩約3分 → 京都太秦キャンパス
- JR亀岡駅よりバス約9分 → 京都亀岡キャンパス
- 2つのキャンパス間に無料シャトルバスを運行約40分



大阪 → 約 **45分**

大阪駅 JR 約 30分 京都駅 地下鉄 烏丸線 約 5分 烏丸御池駅 地下鉄 東西線 約 8分 太秦天神川駅 徒歩 約 3分

三ノ宮 → 約 **75分**

三ノ宮駅 JR 約 60分 京都駅 地下鉄 烏丸線 約 5分 烏丸御池駅 地下鉄 東西線 約 8分 太秦天神川駅 徒歩 約 3分

草津 → 約 **35分**

草津駅 JR 約 15分 山科駅 地下鉄 東西線 約 20分 太秦天神川駅 徒歩 約 3分

京都 → 約 **15分**

京都駅 地下鉄 烏丸線 約 5分 烏丸御池駅 地下鉄 東西線 約 8分 太秦天神川駅 徒歩 約 3分

大和西大寺 → 約 **55分**

大和西大寺駅 近鉄京都線 約 40分 京都駅 地下鉄 烏丸線 約 5分 烏丸御池駅 地下鉄 東西線 約 8分 太秦天神川駅 徒歩 約 3分

京都 → 約 **30分**

京都駅 JR 約 20分 亀岡駅 バス 約 9分

桂 → 約 **30分**

阪急桂駅 バス 約 30分

桂川 → 約 **30分**

JR 桂川駅 バス 約 30分

京都太秦キャンパス

京都亀岡キャンパス

※上記の時間は、本学京都太秦キャンパス並びに京都亀岡キャンパスまでの最短乗車時間の目安を記しています。乗り換え等にかかる時間は含んでいません。また、時間帯によっては変わることがありますのでご注意ください。



KYOTO UNIVERSITY of ADVANCED SCIENCE

京都先端科学大学 大学院

<https://www.kuas.ac.jp/>

【入試に関するお問い合わせ】入学センター
TEL/075-406-9270 E-Mail/nyushi@kuas.ac.jp



京都太秦キャンパス

〒615-8577 京都市右京区山ノ内五反田町18 TEL/075-406-7000(代表)

〔経済経営学部〕経済学科／経営学科 〔人文学部〕心理学科／歴史文化学科 〔健康医療学部〕看護学科／言語聴覚学科
〔工学部〕機械電気システム工学科
〔大学院〕工学研究科(博士課程前期・後期)／経営学研究科(修士課程)／経済学研究科(修士課程)／
人間文化研究科(修士課程)



京都亀岡キャンパス

〒621-8555 京都府亀岡市曾我部町南条大谷1-1 TEL/0771-22-2001(代表)

〔バイオ環境学部〕バイオサイエンス学科／バイオ環境デザイン学科／食農学科 〔健康医療学部〕健康スポーツ学科
〔大学院〕バイオ環境研究科(博士課程前期・後期)